

昭島市 市民意識調査

概 要 版

市民意識調査概要版は、平成27年8月に実施した「昭島市 市民意識調査」報告書を要約したものです。

< 調査の概要 >

- (1) 調査地域・・・・・・昭島市全域
- (2) 調査対象・・・・・・昭島市在住の満16歳以上の個人
- (3) 標本数・・・・・・2,000人（男女各1,000人）
- (4) 抽出方法・・・・・・昭島市住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法・・・・・・郵送配布、郵送回収
- (6) 調査期間・・・・・・平成27年8月18日（火）～平成27年9月7日（月）
- (7) 有効回収率・・・・・・57.6%

< 調査項目 >

- | | |
|---------------|-------------|
| (1) 定住意向 | (9) 昭島市の水道水 |
| (2) 昭島市への愛着度 | (10) 都市景観 |
| (3) 暮らしの満足度 | (11) 少子高齢化 |
| (4) 災害対策 | (12) 健康 |
| (5) 日常生活 | (13) 広報 |
| (6) 地域活動・生涯学習 | (14) 情報化 |
| (7) 学校教育 | (15) 男女共同参画 |
| (8) 環境 | (16) 市政・市役所 |

本概要版を見る際の注意事項

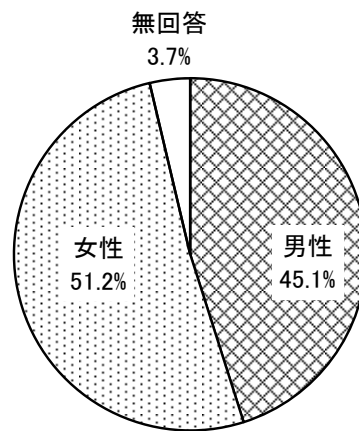
- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、数値の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) n (Number of Cases の略)は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示す。

平成27年12月

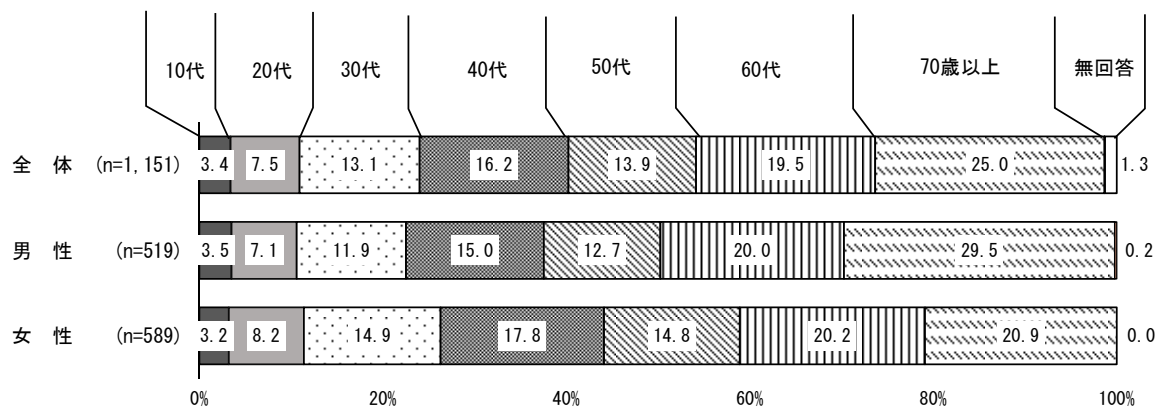
昭 島 市

<回答者の属性>

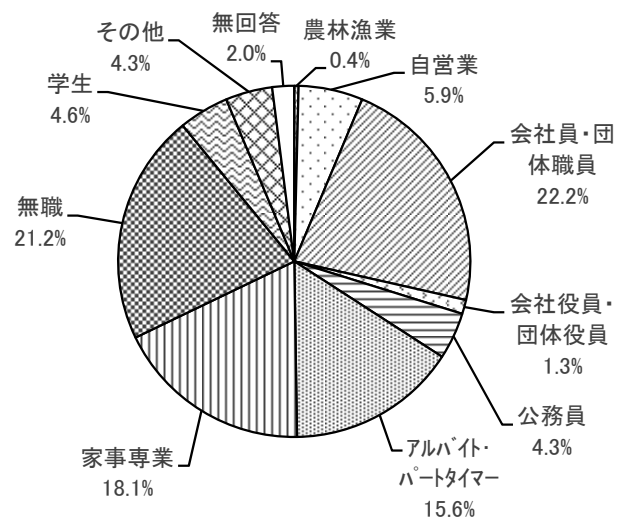
◆性別



◆性・年代

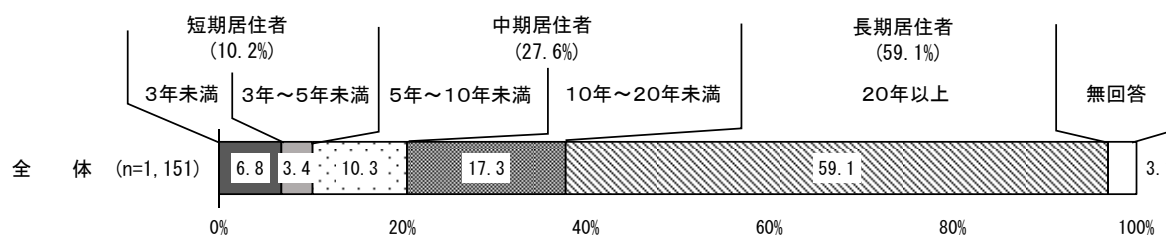


◆職業



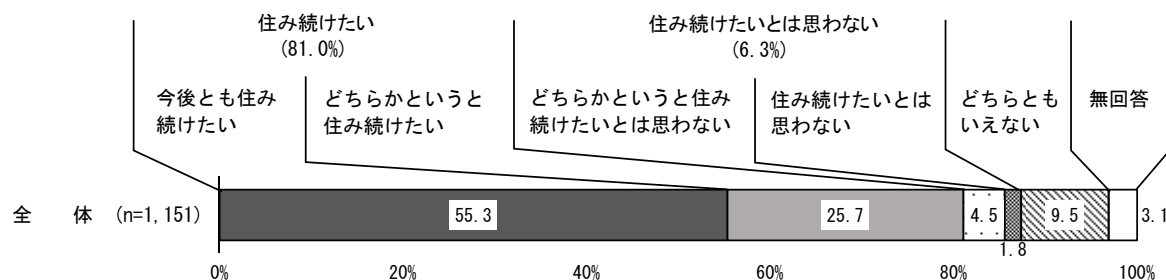
1. 定住意向

(1) 居住年数



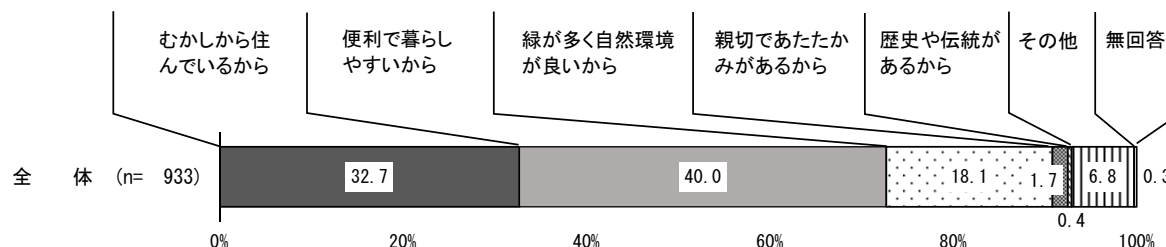
・「3年未満」(6.8%)と「3年～5年未満」(3.4%)を合わせた『短期居住者』(10.2%)が約1割、「5年～10年未満」(10.3%)と「10年～20年未満」(17.3%)を合わせた『中期居住者』(27.6%)が3割近くとなっている。「20年以上」の『長期居住者』(59.1%)は約6割となっている。

(2) 定住意向



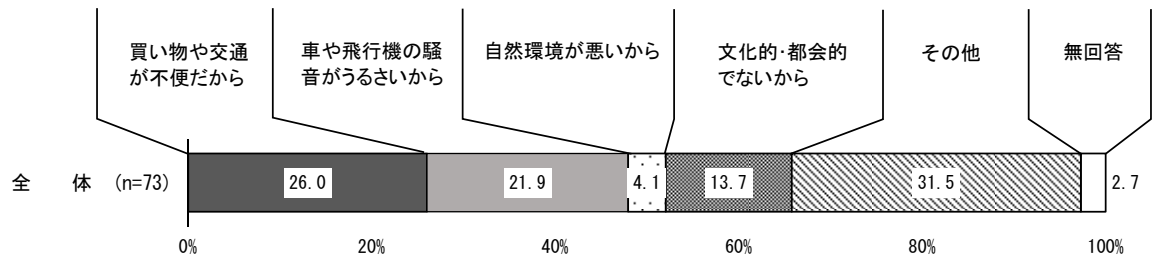
・「今後とも住み続けたい」(55.3%)と「どちらかというに住み続けたい」(25.7%)を合わせた『住み続けたい』(81.0%)が約8割となっている。また、「どちらかというに住み続けたいとは思わない」(4.5%)と「住み続けたいとは思わない」(1.8%)を合わせた『住み続けたいとは思わない』(6.3%)と、「どちらともいえない」(9.5%)は1割未満となっている。

(3) 住み続けたい理由



・「便利で暮らしやすいから」(40.0%)が4割で最も多く、次いで、「むかしから住んでいるから」(32.7%)、「緑が多く自然環境が良いから」(18.1%)などの順となっている。

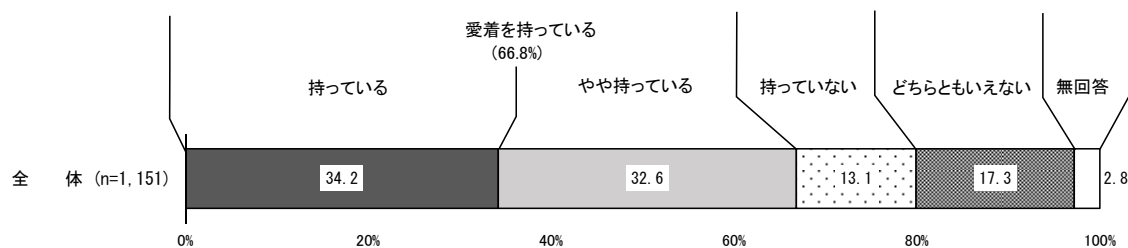
(4) 住み続けたいと思わない理由



・「买东西や交通が不便だから」(26.0%) が2割半ばと最も多く、次いで、「車や飛行機の騒音がうるさいから」(21.9%) 「文化的・都会的でないから」(13.7%) の順となっている。

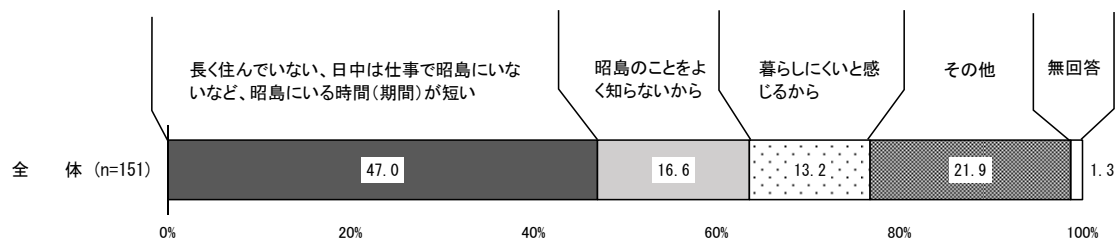
2. 昭島市への愛着度

(1) ふるさどとしての愛着度



・「持っている」(34.2%) と「やや持っている」(32.6%) を合わせた『愛着を持っている』(66.8%) が7割近くとなっている。

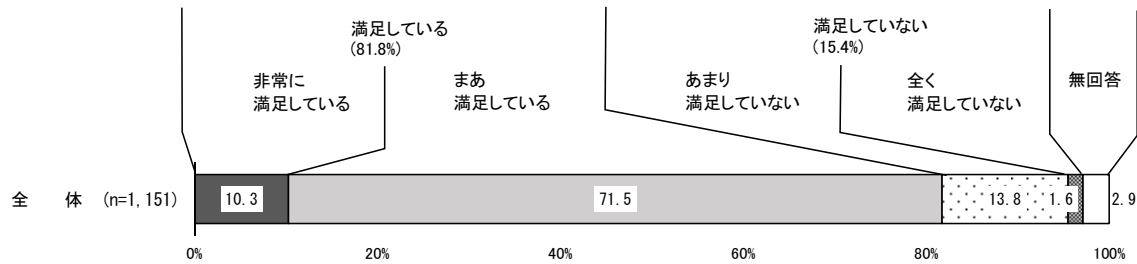
(2) 親しみや愛着を持っていない理由



・「長く住んでいない、日中は仕事で昭島にいないなど、昭島にいる時間(期間)が短い」(47.0%) が5割近くと最も多く、次いで、「昭島のことをよく知らないから」(16.6%)、「暮らしにくいと感じるから」(13.2%) などの順となっている。

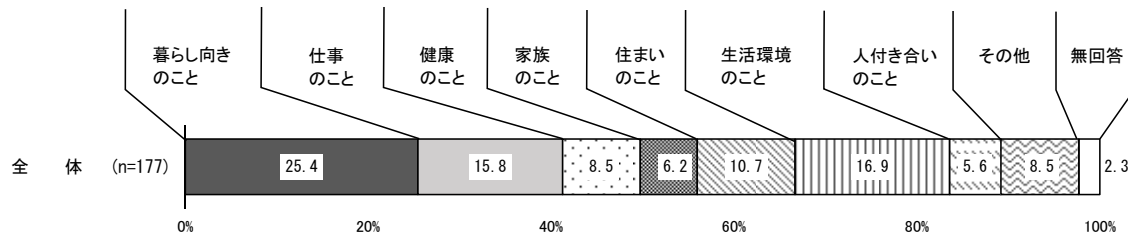
3. 暮らしの満足度

(1) 暮らしの満足度



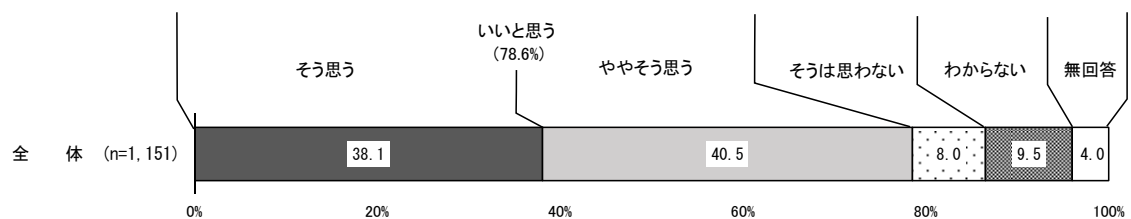
・「まあ満足している」(71.5%) が最も多く、「非常に満足している」(10.3%) を合わせた『満足している』(81.8%) が 8 割以上となっている。一方、「あまり満足していない」(13.8%) と「全く満足していない」(1.6%) を合わせた『満足していない』(15.4%) が 1 割半ばとなっている。

(2) 満足していない理由



・「暮らし向きのこと」(25.4%) が最も多く、次いで、「生活環境のこと」(16.9%)、「仕事のこと」(15.8%)、「住まいのこと」(10.7%) などの順となっている。

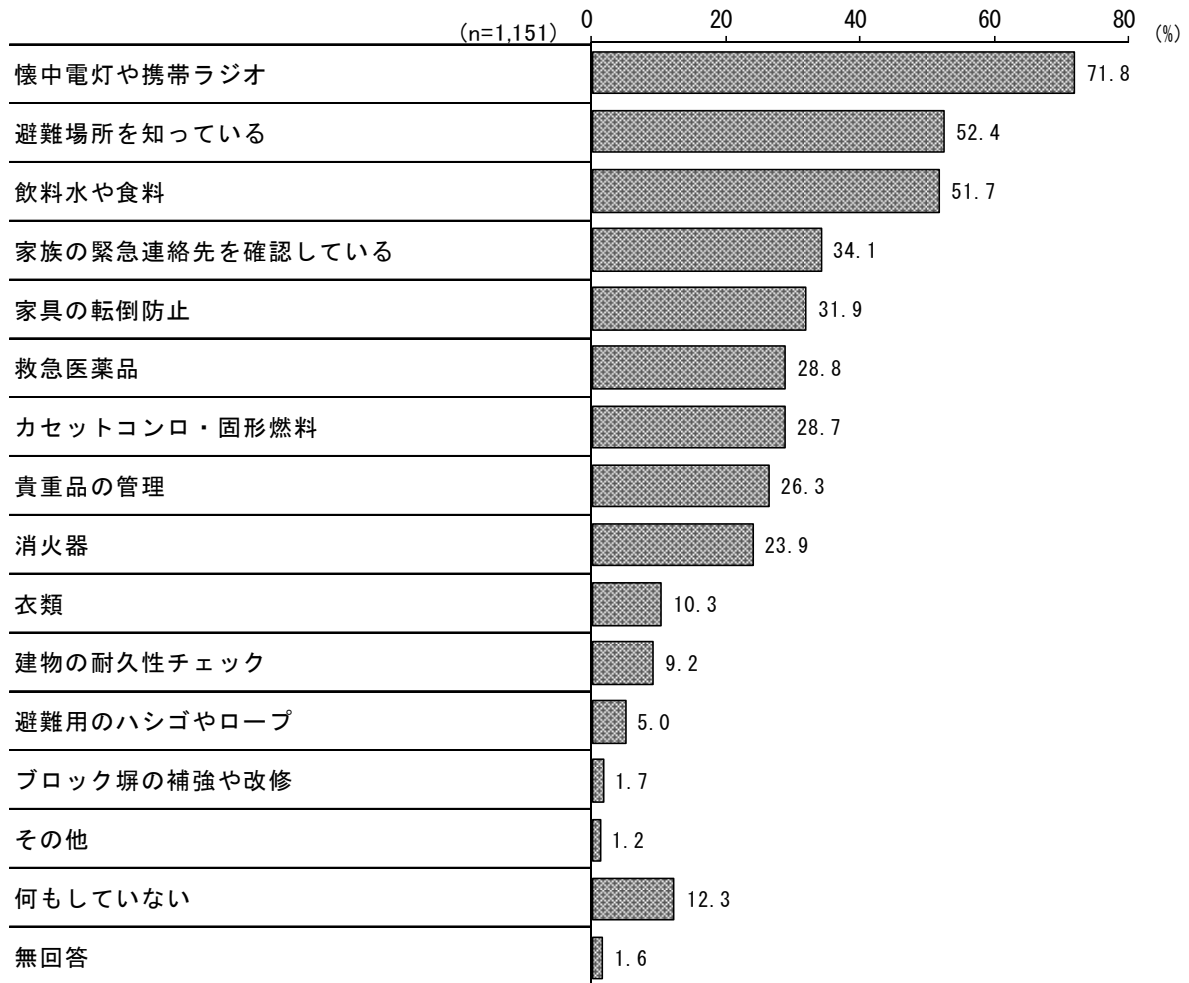
(3) 市の治安はいいと思うか



・「そう思う」(38.1%) と「ややそう思う」(40.5%) を合わせた『いいと思う』(78.6%) が 8 割近くとなっている。

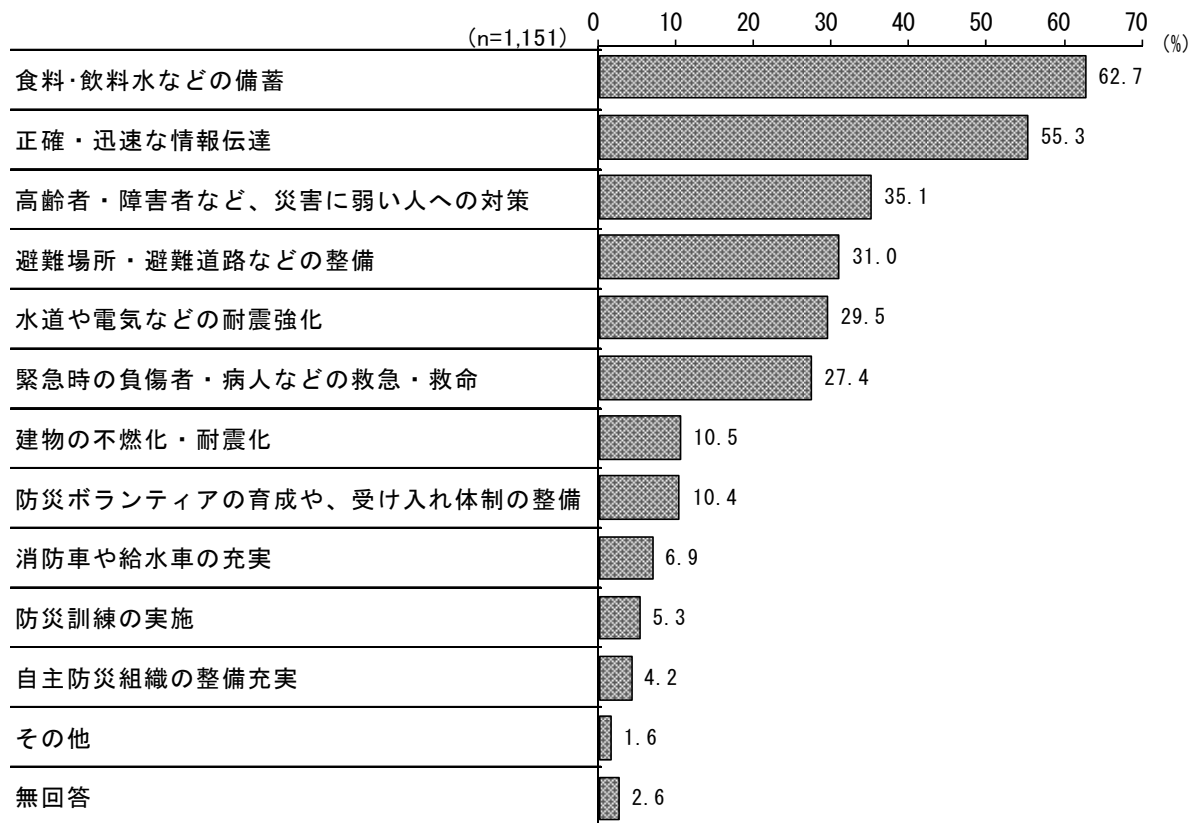
4. 災害対策

(1) 災害に対する備え



・「懐中電灯や携帯ラジオ」(71.8%) が最も多くなっている。次いで、「避難場所を知っている」(52.4%)、「飲料水や食料」(51.7%)、「家族の緊急連絡先を確認している」(34.1%) などの順となっている。

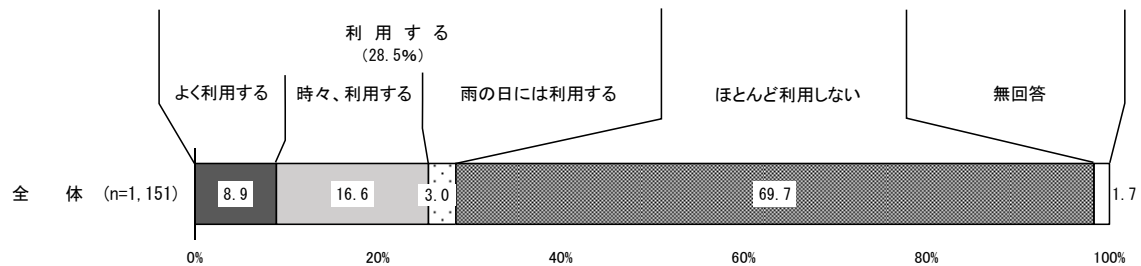
(2) 市の災害対策



・「食料・飲料水などの備蓄」(62.7%) が6割以上を占めている。次いで、「正確・迅速な情報伝達」(55.3%)、「高齢者・障害者など、災害に弱い人への対策」(35.1%)、「避難場所・避難道路などの整備」(31.0%)、「水道や電気などの耐震強化」(29.5%)、「緊急時の負傷者・病人などの救急・救命」(27.4%)などの順となっている。

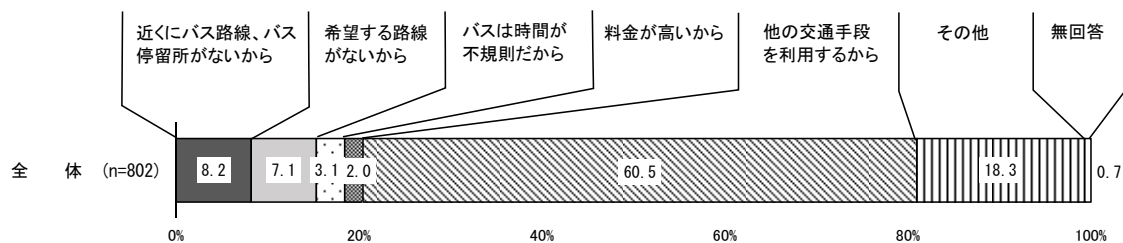
5. 日常生活

(1) バス利用の有無



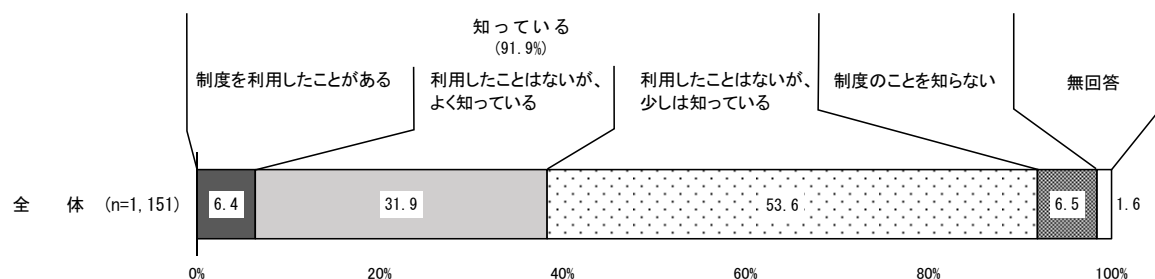
・「ほとんど利用しない」(69.7%) が約 7 割を占めている。また、「よく利用する」(8.9%)、「時々、利用する」(16.6%)、「雨の日には利用する」(3.0%) を合わせた『利用する』(28.5%) は 3 割近くとなっている。

(2) バスを利用しない理由



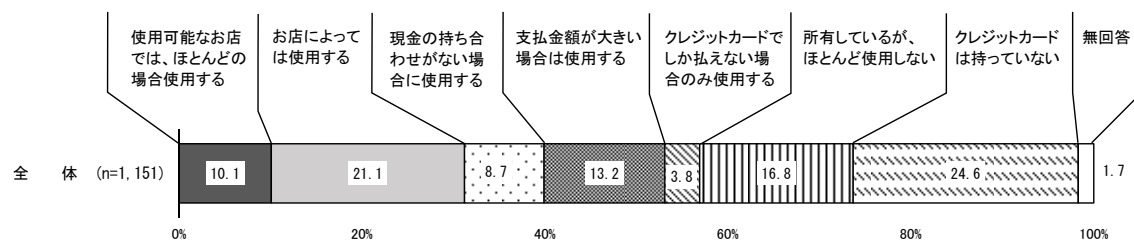
・「他の交通手段を利用するから」(60.5%) が約 6 割と最も多くなっている。次いで、「近くにバス路線、バス停留所がないから」(8.2%)、「希望する路線がないから」(7.1%)、「バスは時間が不規則だから」(3.1%)、「料金が安いから」(2.0%) の順となっており、いずれも 1 割未満となっている。

(3) クーリングオフ制度の認知度



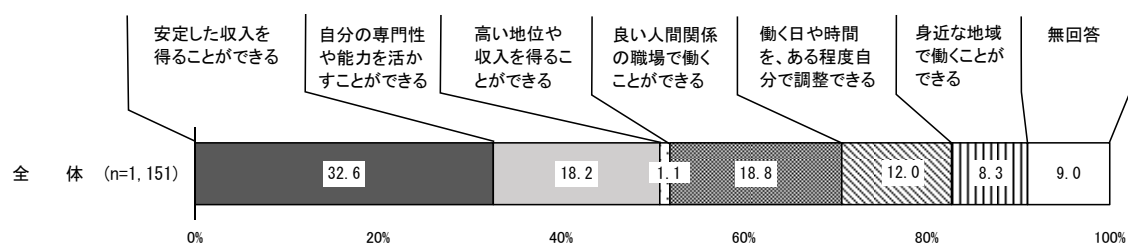
・「利用したことはないが、少しは知っている」(53.6%) が 5 割以上と最も多くなっている。次いで、「利用したことはないが、よく知っている」(31.9%)、「制度を利用したことがある」(6.4%) の順となっている。また、これらを合わせた『知っている』(91.9%) は 9 割以上を占め、認知度は高くなっている。

(4) クレジットカードの使用



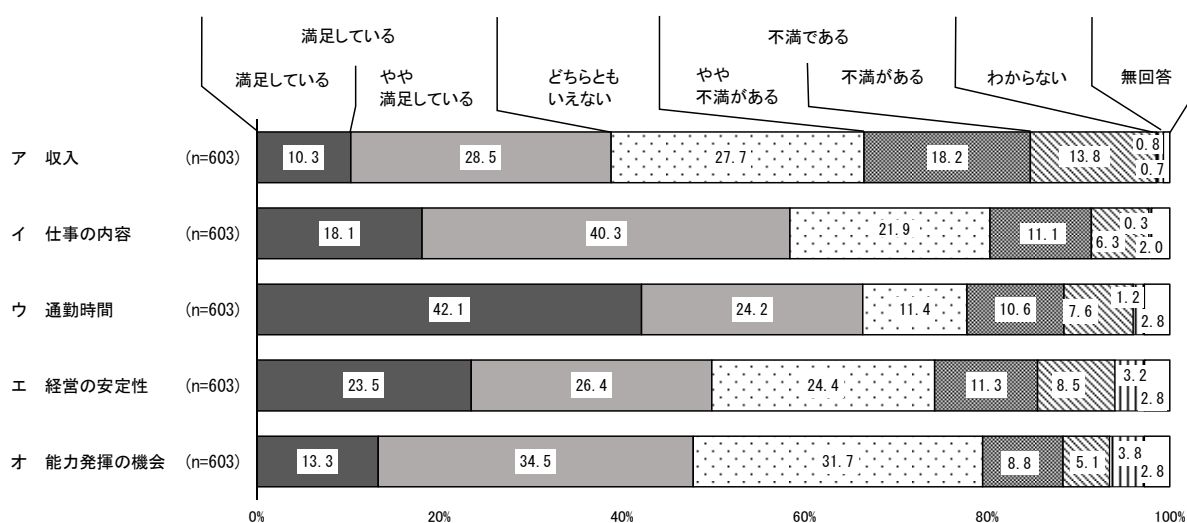
・「お店によっては使用する」(21.1%) が2割以上と多く、次いで、「所有しているが、ほとんど使用しない」(16.8%)、「支払金額が大きい場合は使用する」(13.2%)、「使用可能なお店では、ほとんどの場合使用する」(10.1%)などの順となっている。

(5) 理想的な仕事



・「安定した収入を得ることができる」(32.6%) が3割以上と最も多く、次いで、「良い人間関係の職場で働くことができる」(18.8%)、「自分の専門性や能力を活かすことができる」(18.2%)、「働く日や時間を、ある程度自分で調整できる」(12.0%)などの順となっている。

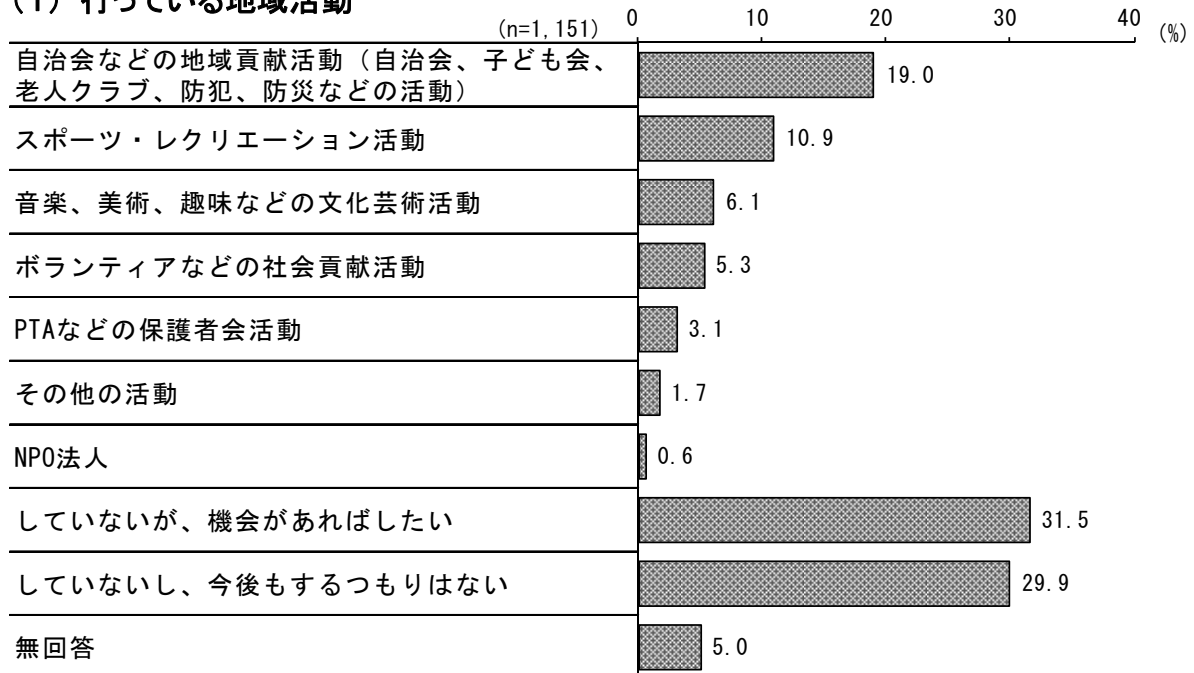
(6) 仕事の満足度



「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足している』は【通勤時間】(66.3%)で最も多く、7割近くとなっている。次いで、【仕事の内容】(58.4%)、【経営の安定性】(49.9%)などの順となっている。

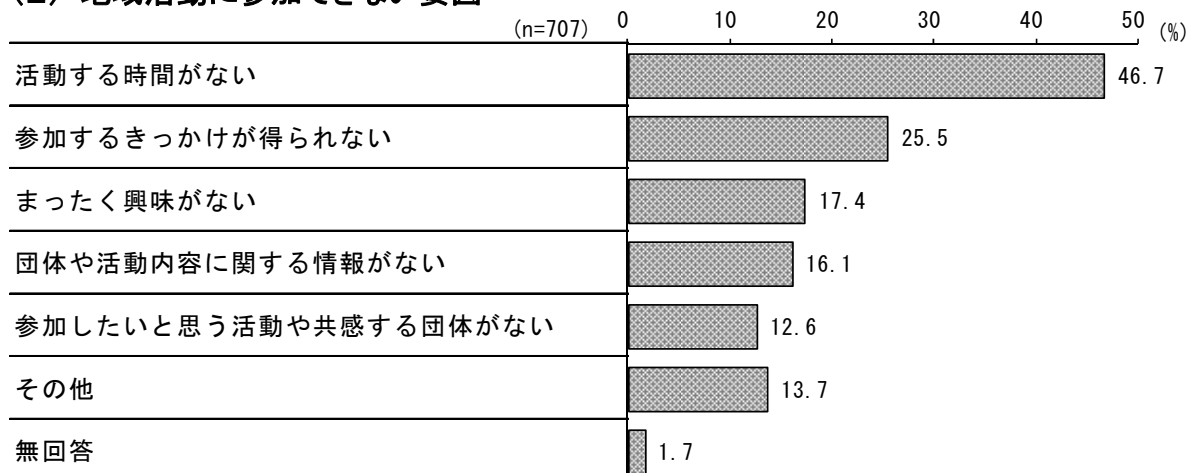
6. 地域活動・生涯学習

(1) 行っている地域活動



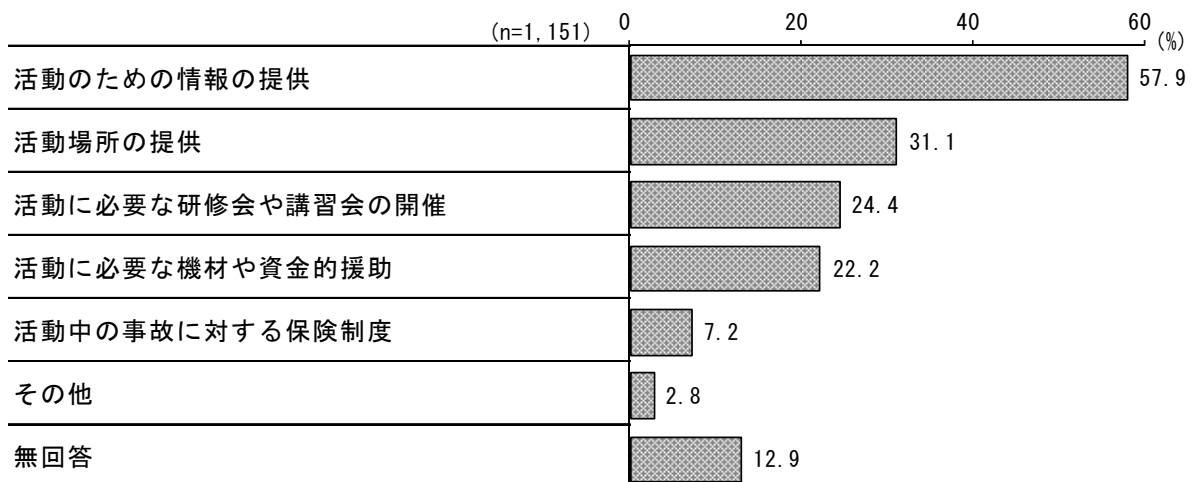
・「自治会などの地域貢献活動」（19.0%）が最も多くなっている。次いで、「スポーツ・レクリエーション活動」（10.9%）、「音楽、美術、趣味などの文化芸術活動」（6.1%）、「ボランティアなどの社会貢献活動」（5.3%）などの順となっている。また、「していないが、機会があればしたい」（31.5%）が3割以上、「していないし、今後もしないつもりはない」（29.9%）が約3割となっている。

(2) 地域活動に参加できない要因



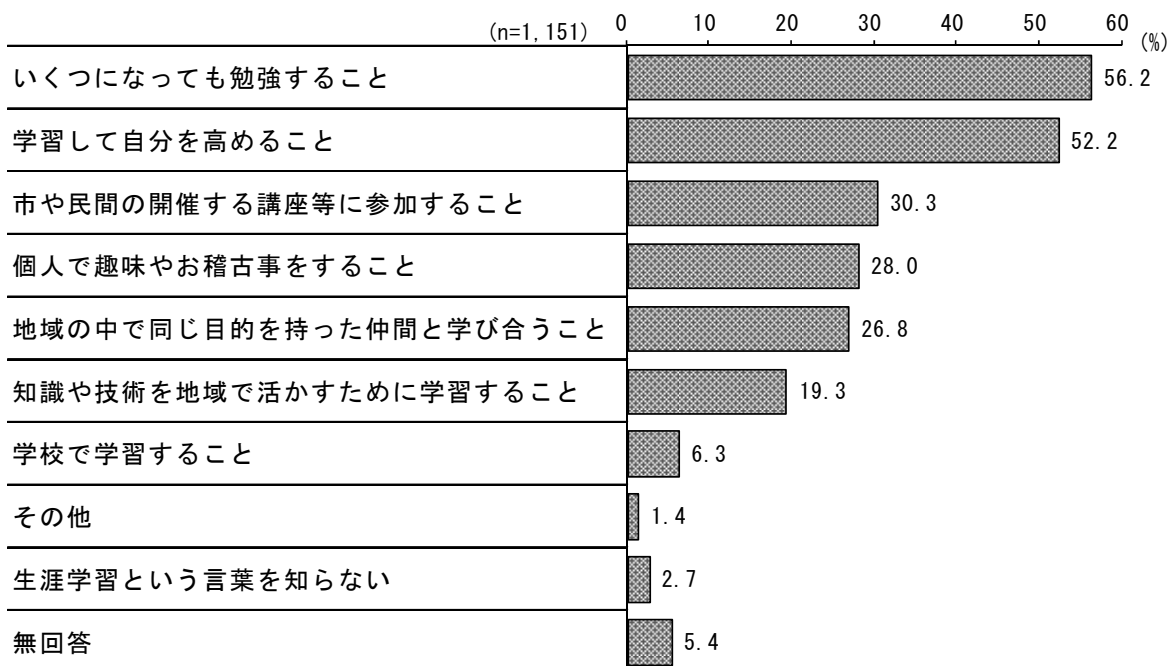
・「活動する時間がない」（46.7%）が5割近くで最も多くなっている。次いで、「参加するきっかけが得られない」（25.5%）、「まったく興味がない」（17.4%）、「団体や活動内容に関する情報がない」（16.1%）、「参加したいと思う活動や共感する団体がない」（12.6%）の順となっている。

(3) 市民活動のために市が力を入れるべきこと



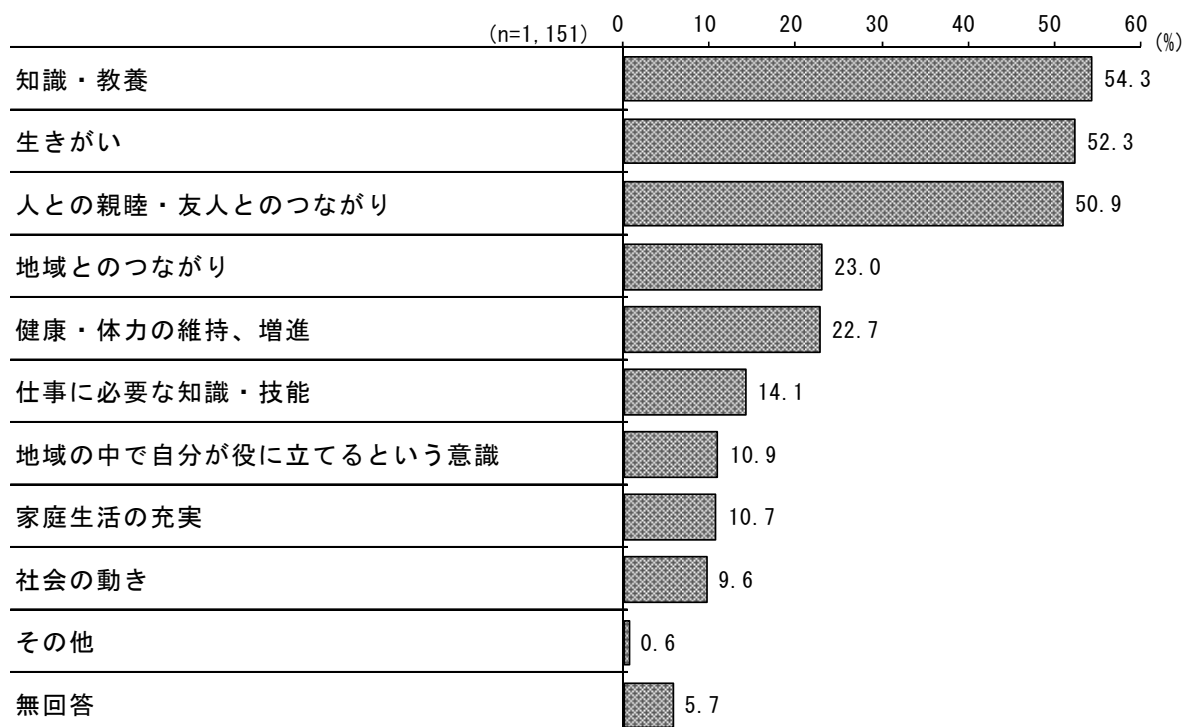
・「活動のための情報の提供」(57.9%) が6割近くと最も多くなっている。次いで、「活動場所の提供」(31.1%)、「活動に必要な研修会や講習会の開催」(24.4%)、「活動に必要な機材や資金的援助」(22.2%)、「活動中の事故に対する保険制度」(7.2%)の順となっている。

(4) 生涯学習の言葉のイメージ



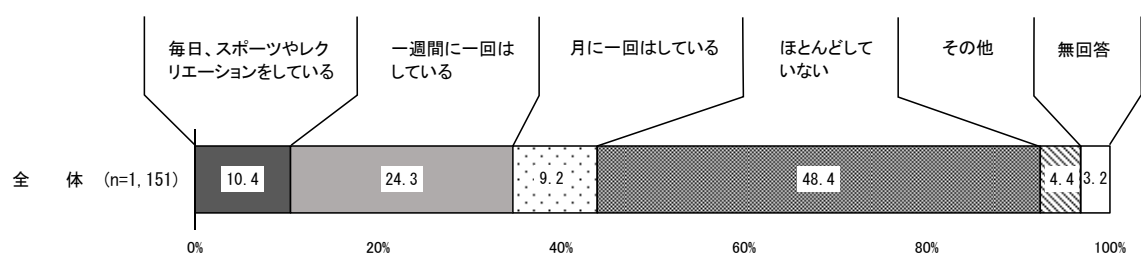
・「いくつになっても勉強すること」(56.2%) が最も多く、次いで、「学習して自分を高めること」(52.2%)、「市や民間の開催する講座等に参加すること」(30.3%)、「個人で趣味やお稽古事をする事」(28.0%)、「地域の中で同じ目的を持った仲間と学び合うこと」(26.8%)などの順となっている。

(5) 生涯学習を通じて得られること



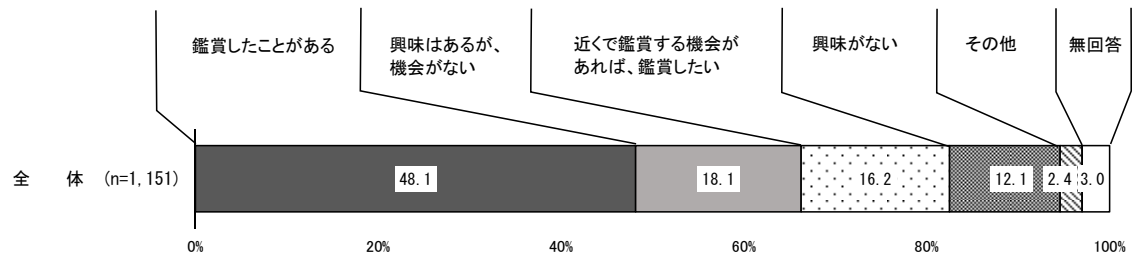
・「知識・教養」(54.3%) が5割半ばで多く、次いで、「生きがい」(52.3%) が5割以上、「人との親睦・友人とのつながり」(50.9%)、「地域とのつながり」(23.0%)、「健康・体力の維持、増進」(22.7%) などの順となっている。

(6) スポーツやレクリエーションの頻度



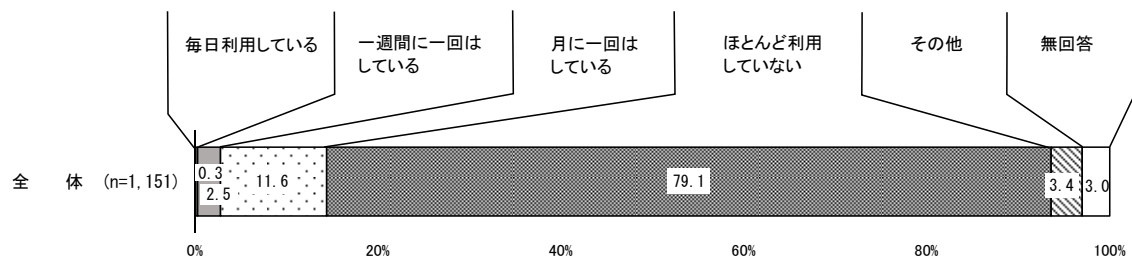
・「ほとんどしていない」(48.4%) が5割近くと最も多くなっている。次いで、「一週間に一回はしている」(24.3%)、「毎日、スポーツやレクリエーションをしている」(10.4%)、「月に一回はしている」(9.2%) の順となっている。

(7) 音楽・演劇・美術の鑑賞



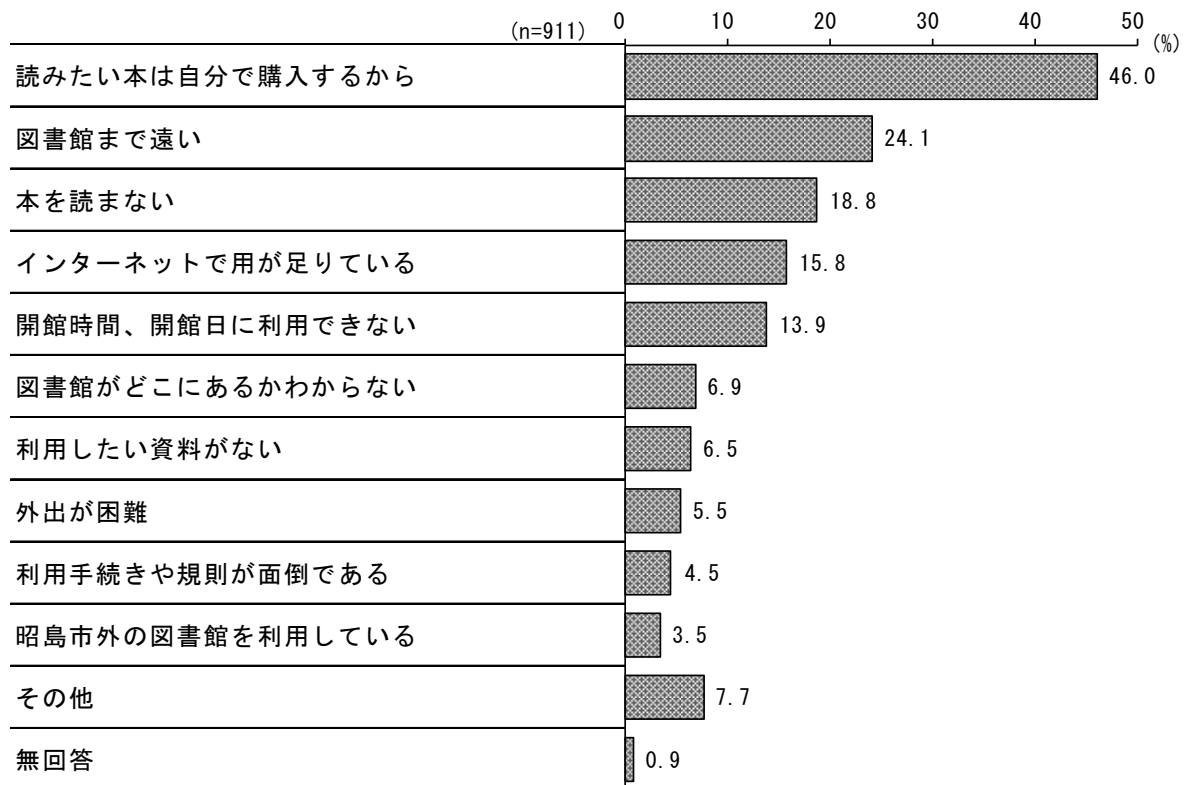
・「鑑賞したことがある」(48.1%) が 5 割近くと最も多くなっている。次いで、「興味はあるが、機会がない」(18.1%)、「近くで鑑賞する機会があれば、鑑賞したい」(16.2%)、「興味がない」(12.1%) の順となっている。

(8) 図書館の利用頻度



・「ほとんど利用していない」(79.1%) が約 8 割で最も多くなっている。次いで、「月に一回はしている」(11.6%)、「一週間に一回はしている」(2.5%)、「毎日利用している」(0.3%) の順となっている。

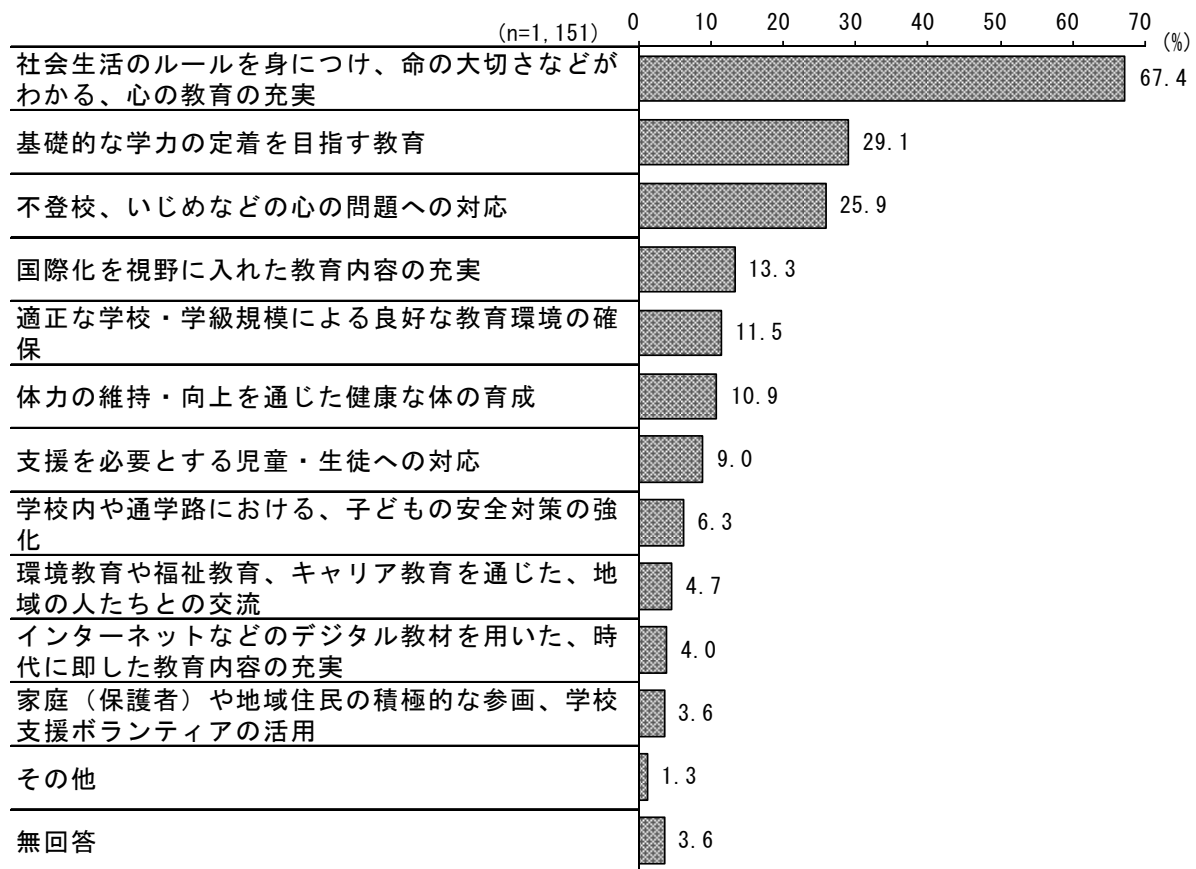
(9) 図書館を利用していない理由



・「読みたい本は自分で購入するから」(46.0%)、「図書館まで遠い」(24.1%)、「本を読まない」(18.8%)、「インターネットで用が足りている」(15.8%)、「開館時間、開館日に利用できない」(13.9%)、「図書館がどこにあるかわからない」(6.9%)などの順となっている。

7. 学校教育

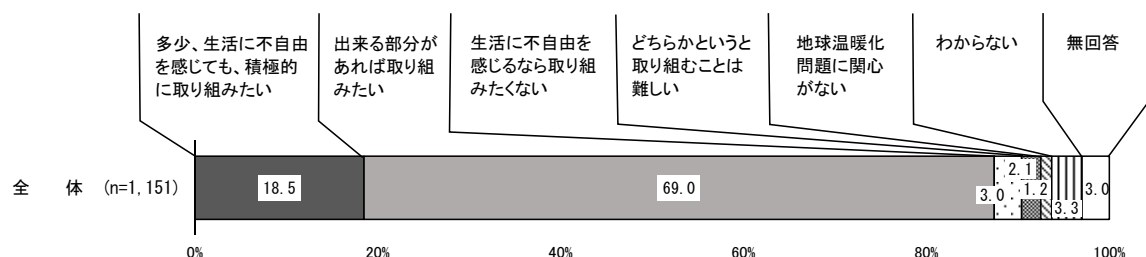
(1) 学校教育の充実のために力を入れるべきこと



・「社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる、心の教育の充実」（67.4%）が7割近くと最も多くなっている。次いで、「基礎的な学力の定着を目指す教育」（29.1%）、「不登校、いじめなどの心の問題への対応」（25.9%）、「国際化を視野に入れた教育内容の充実」（13.3%）、「適正な学校・学級規模による良好な教育環境の確保」（11.5%）、「体力の維持・向上を通じた健康な体の育成」（10.9%）などの順となっている。

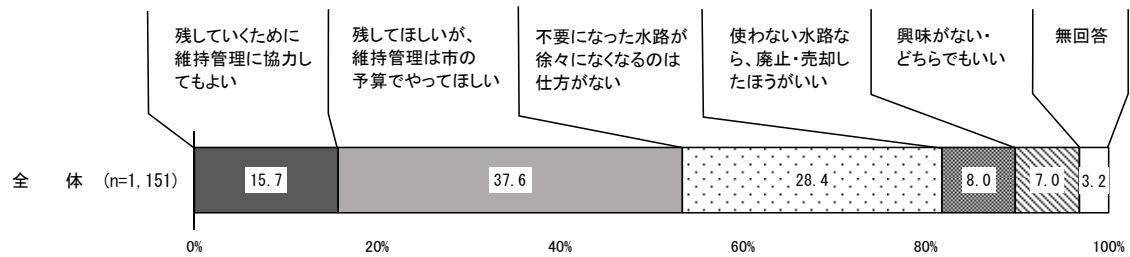
8. 環境

(1) 地球温暖化問題への関心



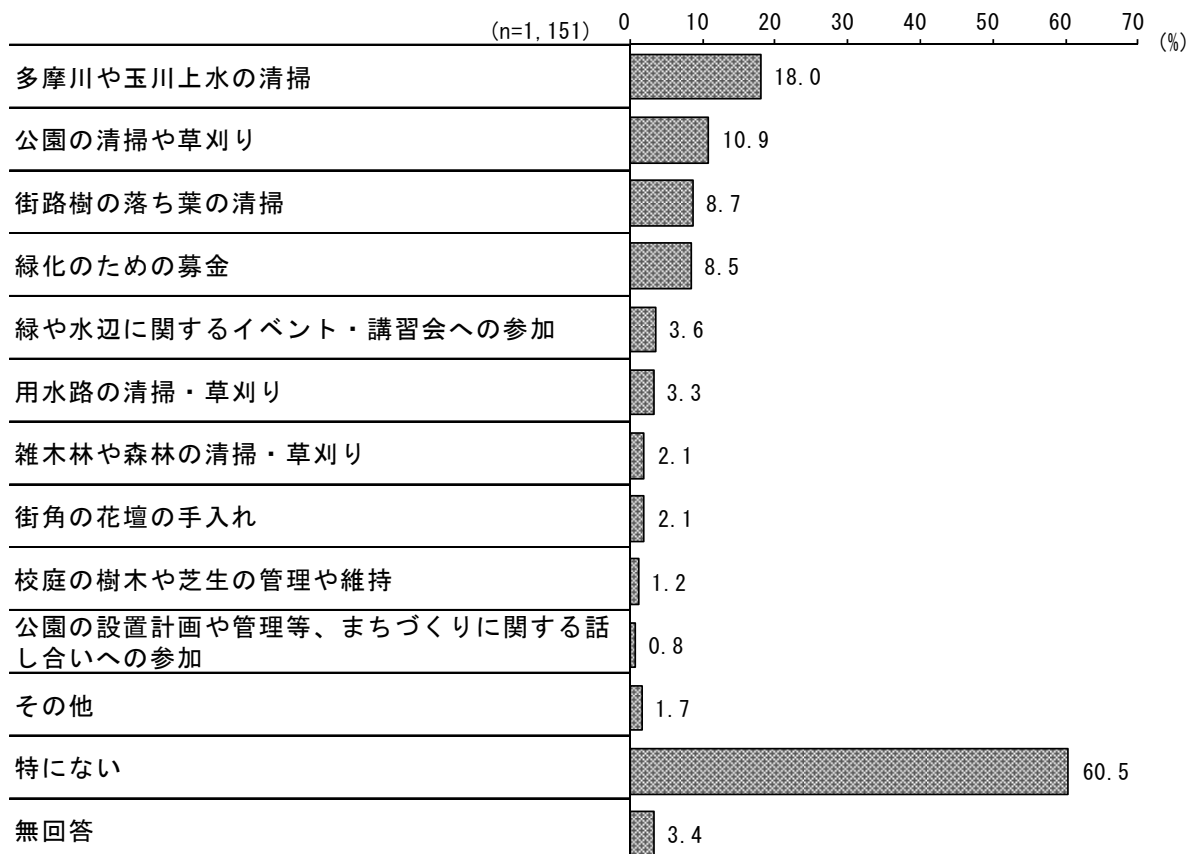
・「出来る部分があれば取り組みたい」（69.0%）が約7割と最も多くなっている。次いで、「多少、生活に不自由を感じても、積極的に取り組みたい」（18.5%）が2割近くとなっている。

(2) 農業用水路への関心



・「残してほしいが、維持管理は市の予算でやってほしい」(37.6%) が 4 割近くと最も多くなっている。次いで、「不要になった水路が徐々になくなるのは仕方がない」(28.4%)、「残していくために維持管理に協力してもよい」(15.7%)、「使わない水路なら、廃止・売却したほうがよい」(8.0%) の順となっている。

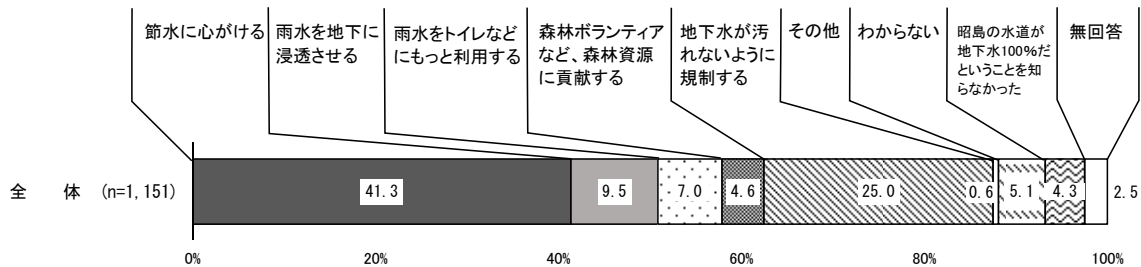
(3) 水と緑に関する市民活動



・「多摩川や玉川上水の清掃」(18.0%) が 2 割近くと最も多く、次いで「公園の清掃や草刈り」(10.9%)、「街路樹の落ち葉の清掃」(8.7%)、「緑化のための募金」(8.5%) などの順となっている。

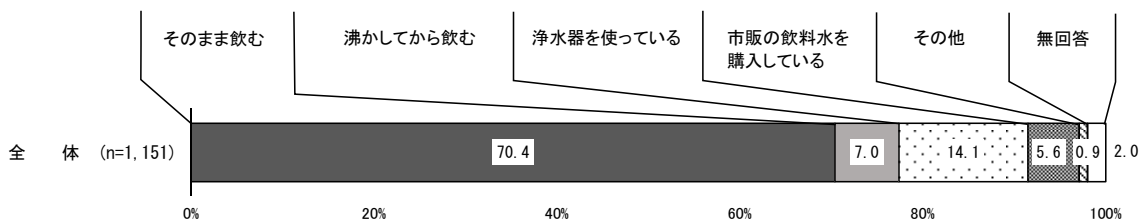
9. 昭島市の水道水

(1) 水道水に対する関心



・「節水に心がける」(41.3%) が4割以上と最も多くなっている。次いで、「地下水が汚れないように規制する」(25.0%)、「雨水を地下に浸透させる」(9.5%)、「雨水をトイレなどにもっと利用する」(7.0%) などの順となっている。一方、「昭島の水道が地下水 100%だということを知らなかった」(4.3%) が少ないことから、地下水 100%の認知は高いと言える。

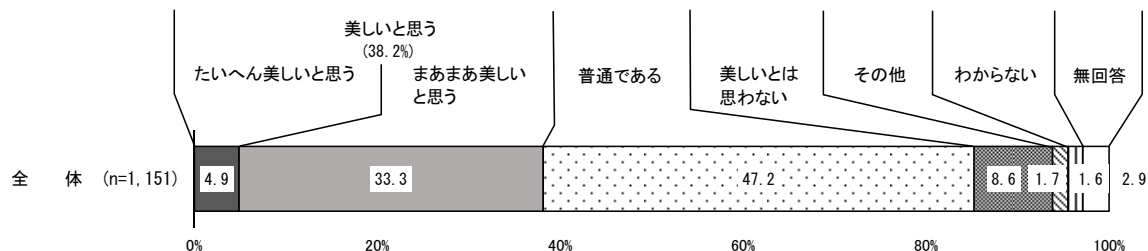
(2) 水道水の飲用状況



・「そのまま飲む」(70.4%) が約 7 割と最も多くなっている。次いで、「浄水器を使っている」(14.1%)、「沸かしてから飲む」(7.0%)、「市販の飲料水を購入している」(5.6%) の順となっている。

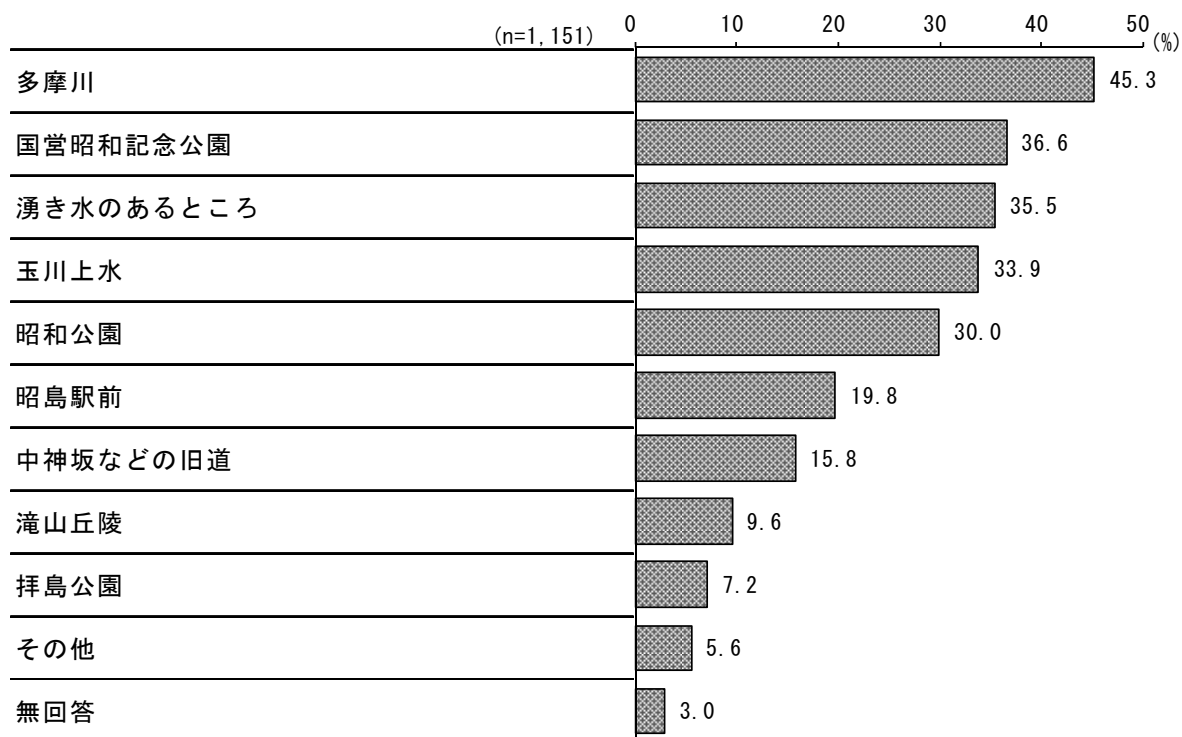
10. 都市景観

(1) 街並みの美しさに対する意識



・「普通である」(47.2%) が 5 割近くと最も多くなっている。「たいへん美しいと思う」(4.9%) と「まあまあ美しいと思う」(33.3%) を合わせた『美しいと思う』(38.2%) が 4 割近くとなっている。

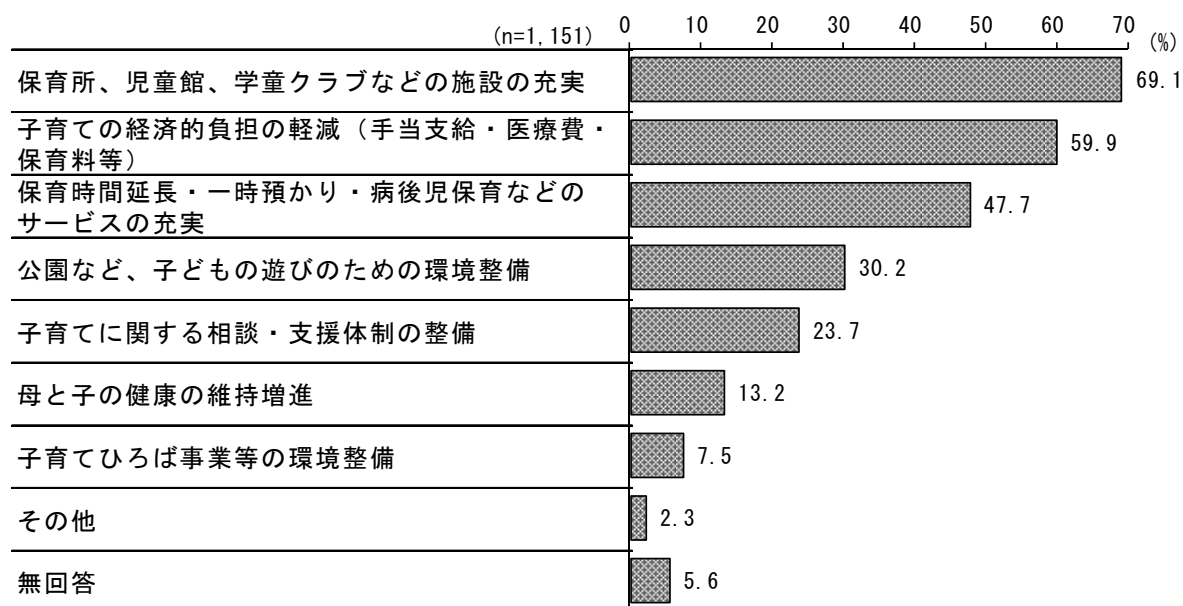
(2) 昭島らしい街並みや景観



・「多摩川」(45.3%) が 4 割半ばで多く、次いで「国営昭和記念公園」(36.6%) が 4 割近くとなっている。次いで、「湧き水のあるところ」(35.5%)、「玉川上水」(33.9%)、「昭和公園」(30.0%)、「昭島駅前」(19.8%) などの順となっている。

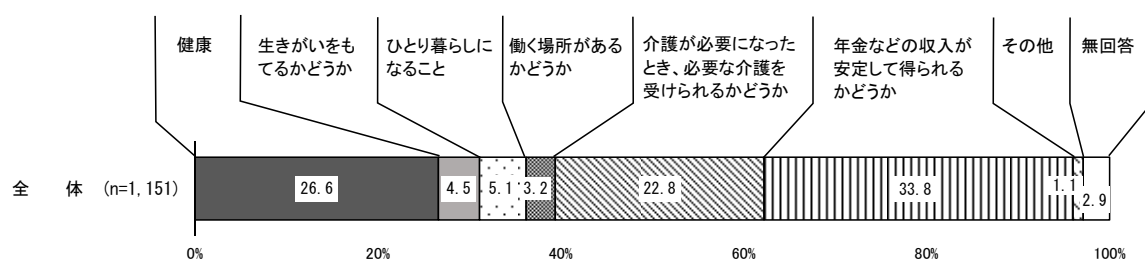
11. 少子高齢化

(1) 子育てをしやすい環境作りに必要なこと



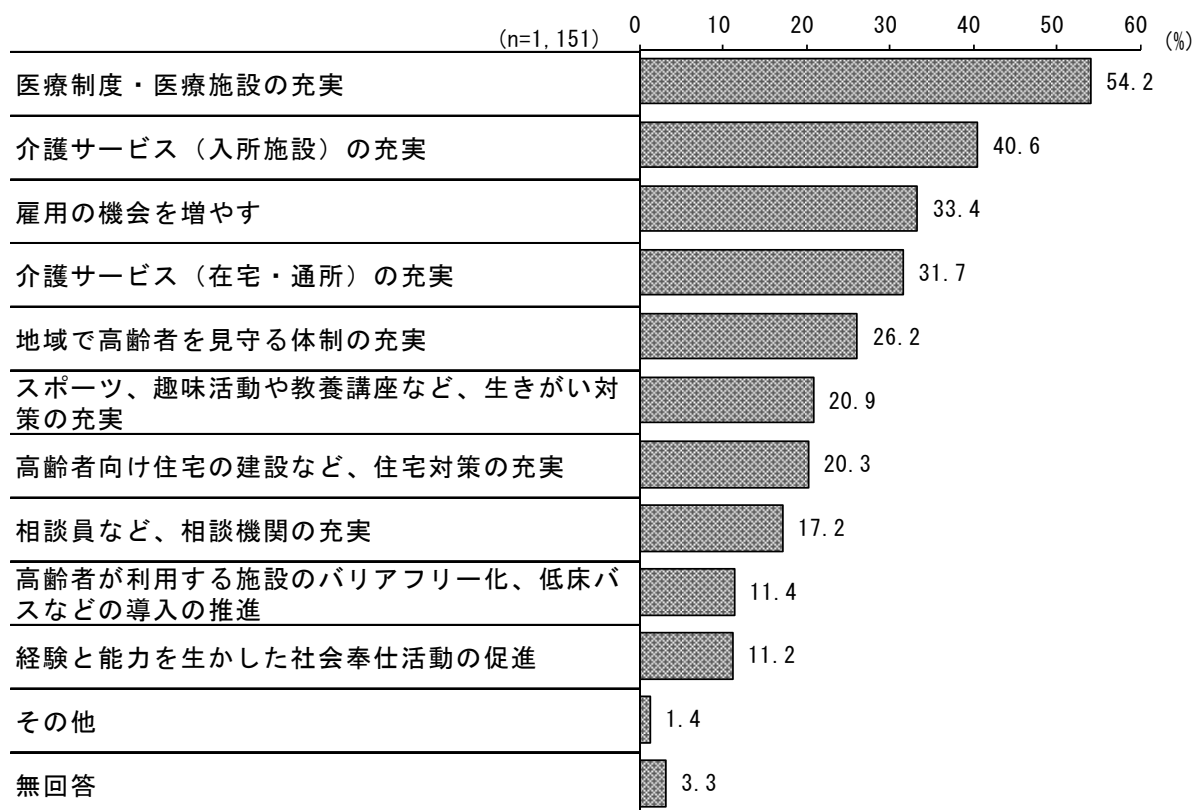
・「保育所、児童館、学童クラブなどの施設の充実」（69.1%）が約7割と最も多くなっている。次いで、「子育ての経済的負担の軽減（手当支給・医療費・保育料等）」（59.9%）、「保育時間延長・一時預かり・病後児保育などのサービスの充実」（47.7%）、「公園など、子どもの遊びのための環境整備」（30.2%）などの順となっている。

(2) 老後について最も不安に感じること



・「年金などの収入が安定して得られるかどうか」（33.8%）が3割以上と最も多く、次いで、「健康」（26.6%）、「介護が必要になったとき、必要な介護を受けられるかどうか」（22.8%）などの順となっている。

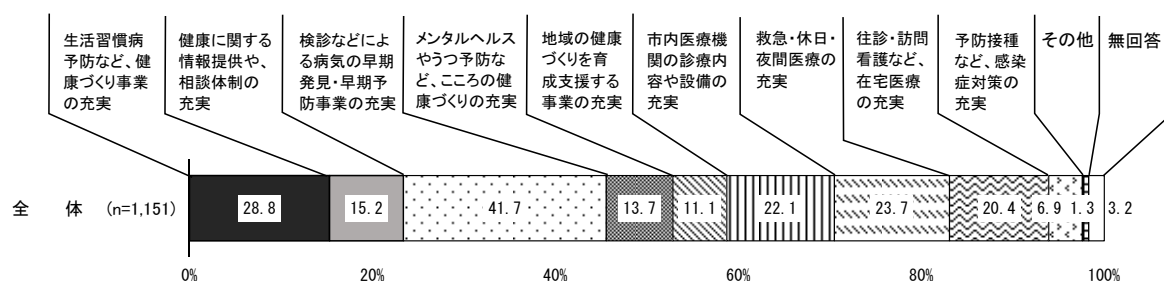
(3) 高齢者のために重要な施策



・「医療制度・医療施設の充実」(54.2%) が5割半ばと最も多くなっている。次いで、「介護サービス（入所施設）の充実」(40.6%)、「雇用の機会を増やす」(33.4%)、「介護サービス（在宅・通所）の充実」(31.7%)、「地域で高齢者を見守る体制の充実」(26.2%)、「スポーツ、趣味活動や教養講座など、生きがい対策の充実」(20.9%)などの順となっている。

12. 健康

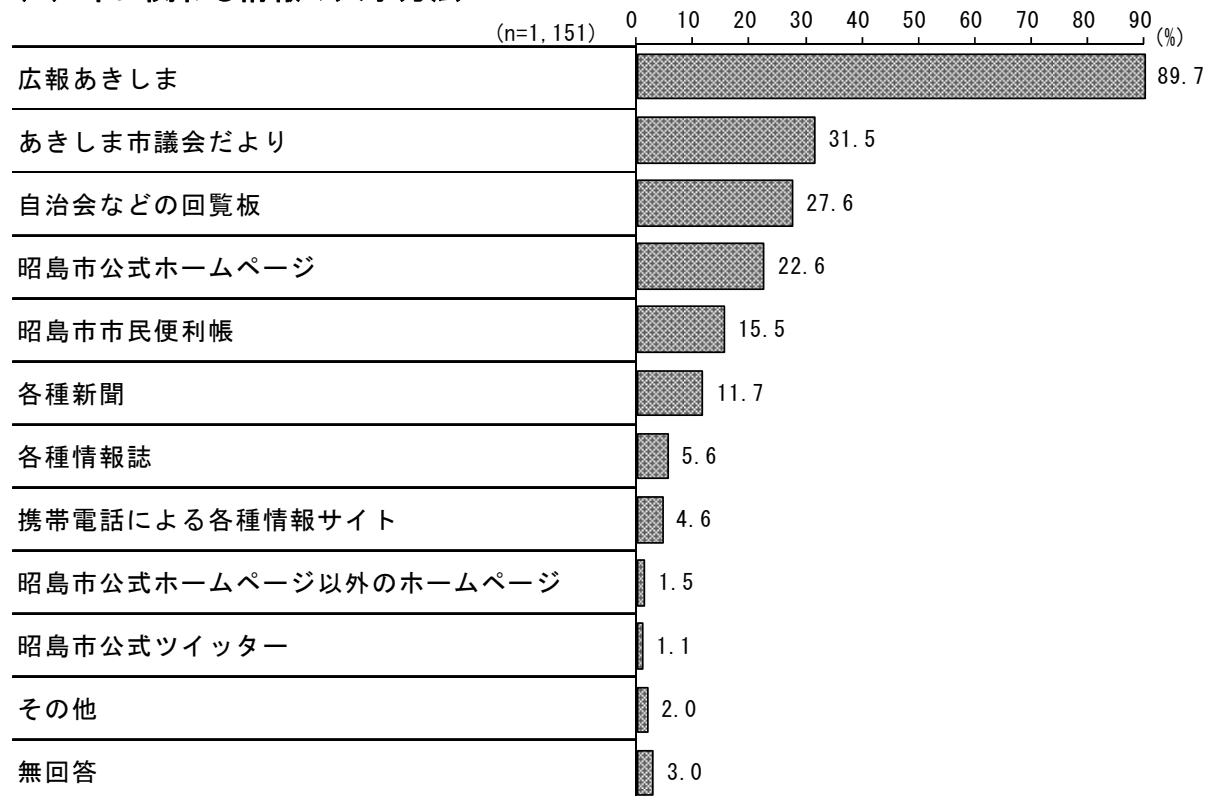
(1) 生涯健康で暮らしていくため市が力を入れるべき施策



・「検診などによる病気の早期発見・早期予防事業の充実」(41.7%) が4割以上と最も多くなっている。次いで、「生活習慣病予防など、健康づくり事業の充実」(28.8%)、「救急・休日・夜間医療の充実」(23.7%)、「市内医療機関の診療内容や設備の充実」(22.1%)、「往診・訪問看護など、在宅医療の充実」(20.4%)などの順となっている。

13. 広報

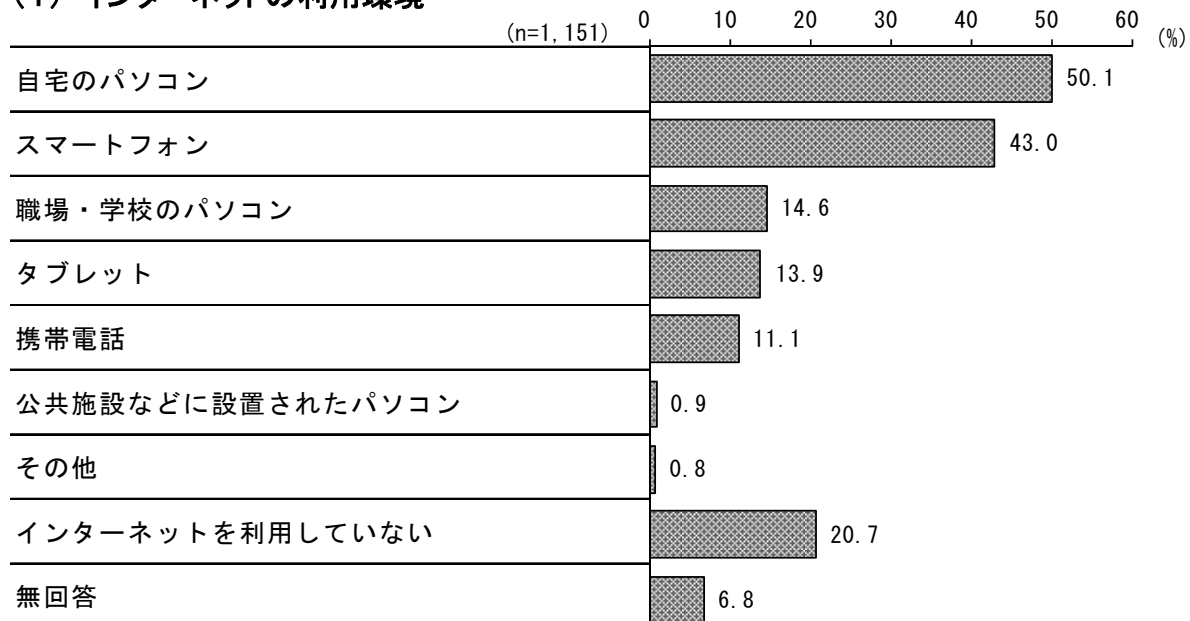
(1) 市に関わる情報の入手方法



・「広報あきしま」(89.7%) が約9割を占め、ほとんどの入手方法となっている。次いで、「あきしま市議会だより」(31.5%)、「自治会などの回覧板」(27.6%)、「昭島市公式ホームページ」(22.6%)、「昭島市市民便利帳」(15.5%)、「各種新聞」(11.7%)などの順となっている。

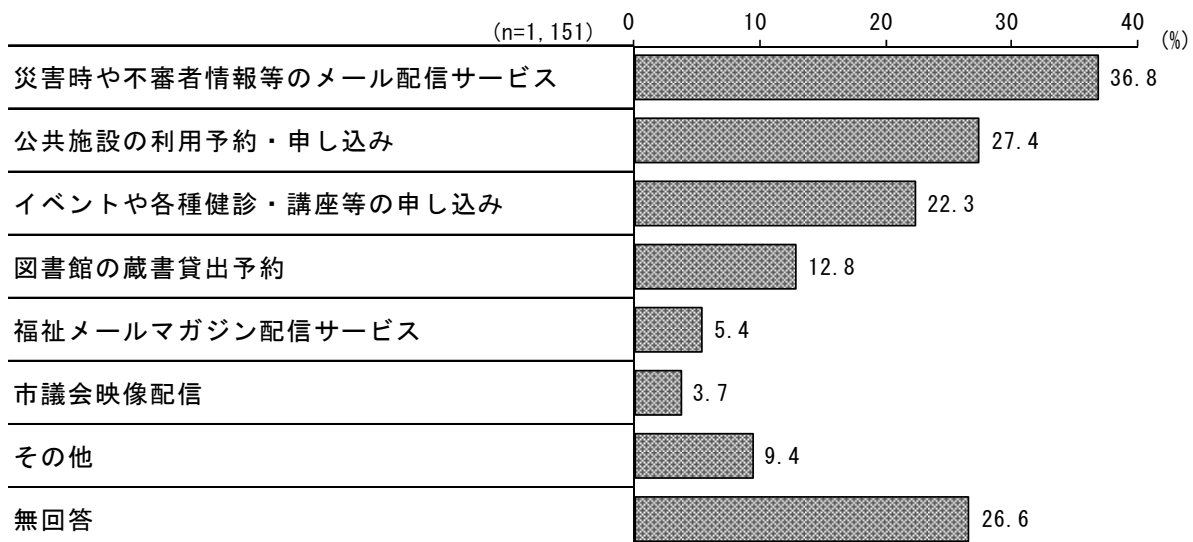
14. 情報化

(1) インターネットの利用環境



・「自宅のパソコン」(50.1%) が約 5 割と最も多く、次いで、「スマートフォン」(43.0%)、「職場・学校のパソコン」(14.6%)、「タブレット」(13.9%)、「携帯電話」(11.1%) などの順となっている。また、「インターネットを利用していない」(20.7%) が約 2 割となっている。

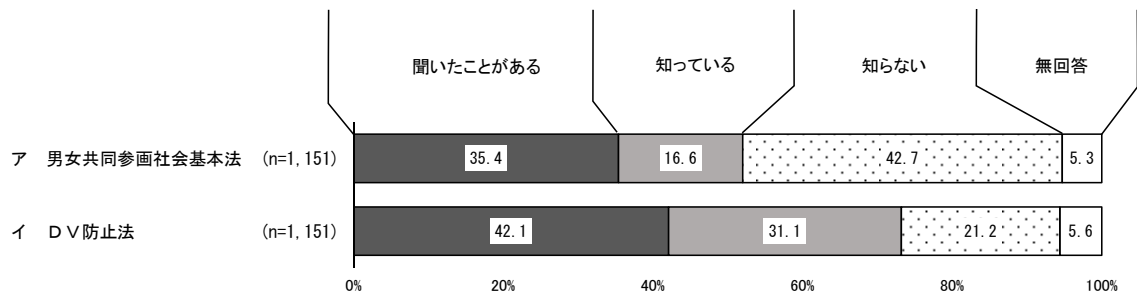
(2) 自治体提供のインターネット利用サービスの利用状況



・「災害時や不審者情報等のメール配信サービス」(36.8%) が 4 割近くと最も多くなっている。次いで、「公共施設の利用予約・申し込み」(27.4%)、「イベントや各種健診・講座等の申し込み」(22.3%)、「図書館の蔵書貸出予約」(12.8%)、「福祉メールマガジン配信サービス」(5.4%)、「市議会映像配信」(3.7%) の順となっている。

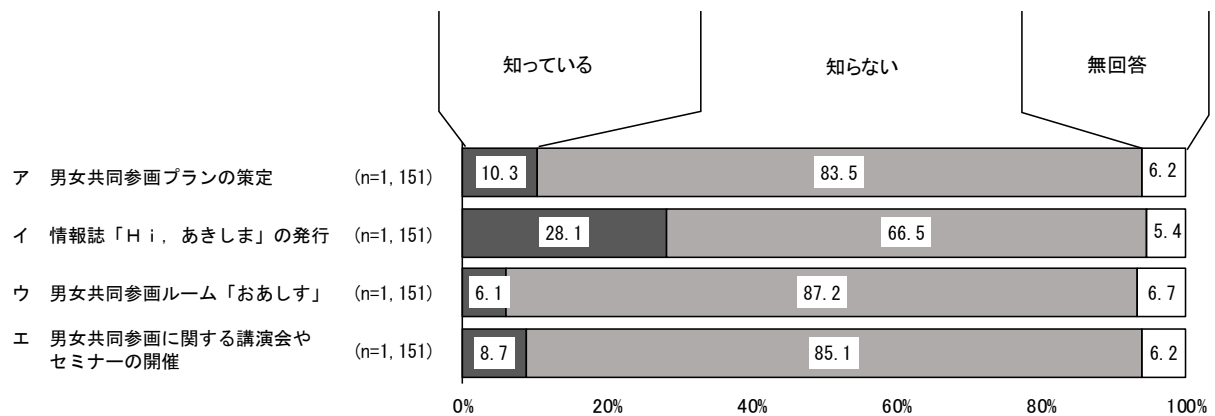
15. 男女共同参画

(1) 法律の認知度



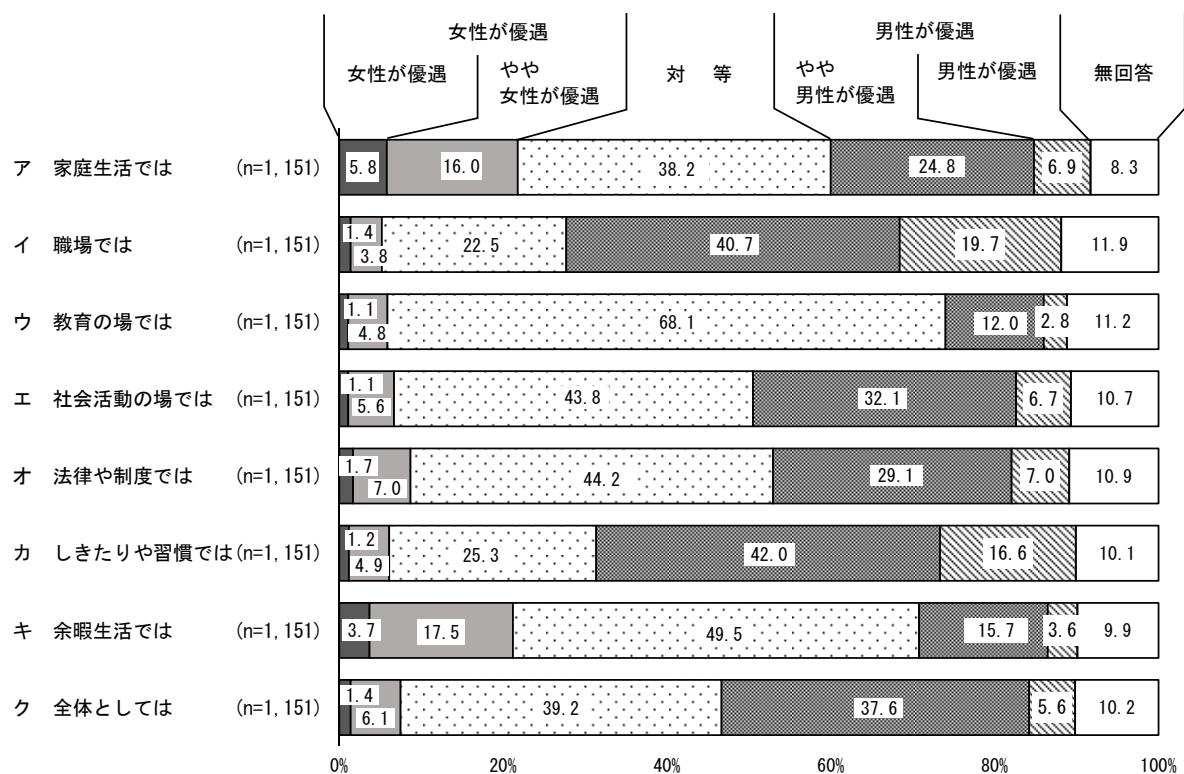
・「知っている」が多いのは【DV防止法】(31.1%)で3割以上となっており、「知っている」、「聞いたことがある」を合わせると(73.2%)で7割以上である。一方、【男女共同参画社会基本法】は「知らない」(42.7%)が4割以上と認知度が低い。

(2) 男女共同参画事業の認知度



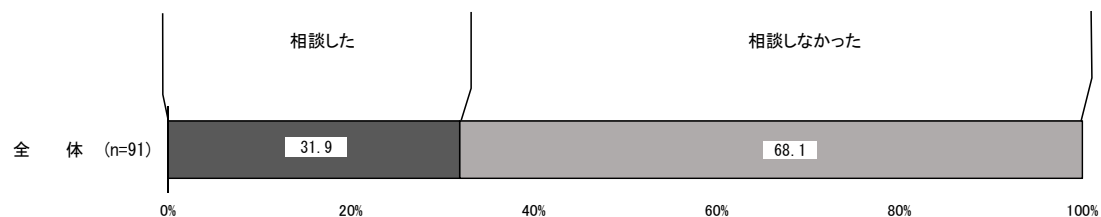
・「知っている」が多いのは【情報誌「Hi, あきしま」の発行】(28.1%)で3割近くと最も多く、次いで【男女共同参画プランの策定】(10.3%)、【男女共同参画に関する講演会やセミナーの開催】(8.7%)となっている。

(3) 男女の地位



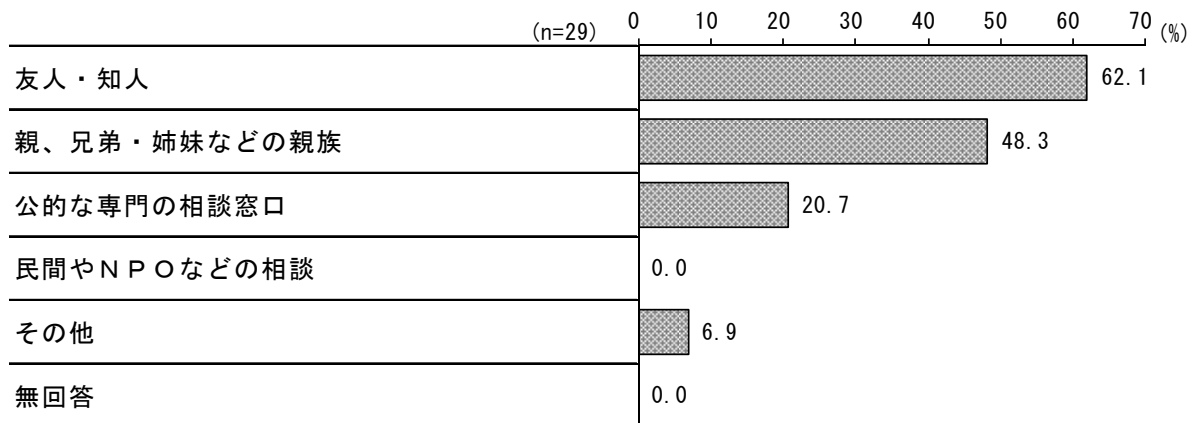
・「対等」と答えた割合は、【教育の場では】(68.1%) が7割近くと最も多い。次いで【余暇生活では】(49.5%)、【法律や制度では】(44.2%)、【社会活動の場では】(43.8%) の順で多い。「やや男性が優遇」と「男性が優遇」を合わせた『男性が優遇』は【職場では】(60.4%) が約6割となっている。

(4) DV被害の相談



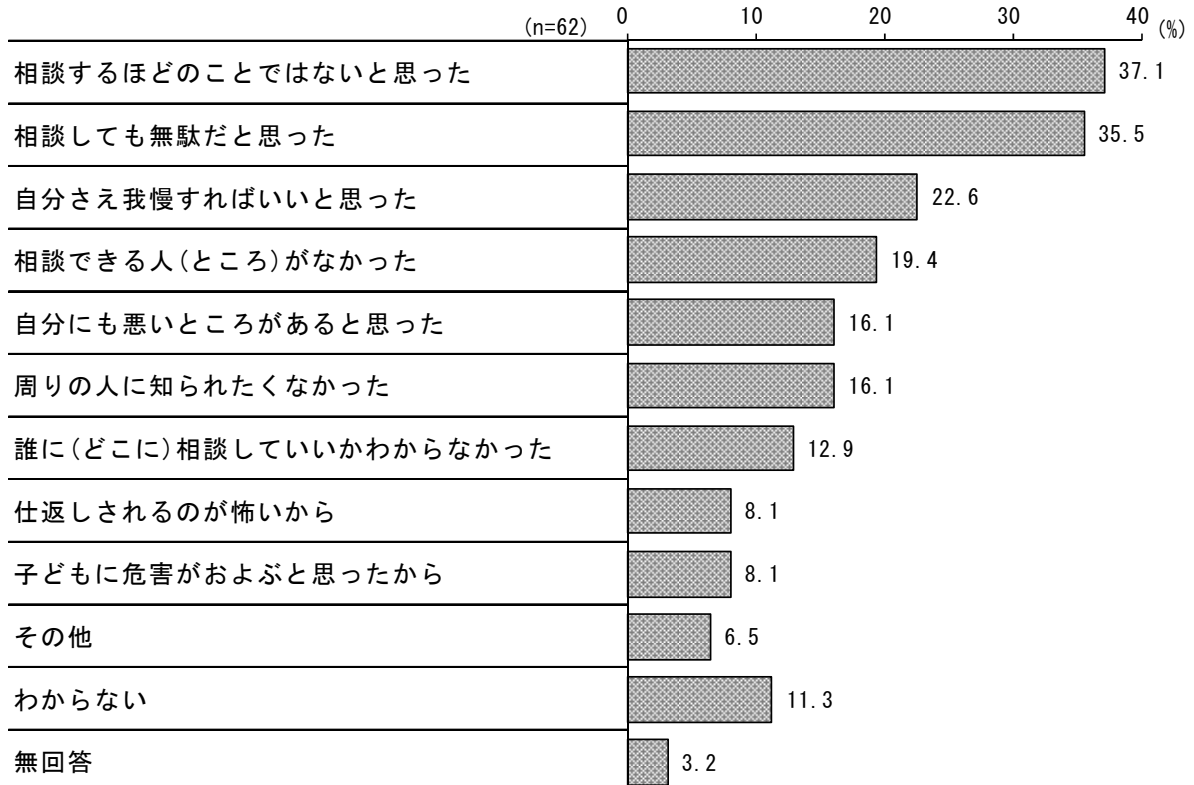
・「相談した」(31.9%) が3割以上、相談しなかった(68.1%) が7割近くとなっている。

(5) DV被害の相談相手



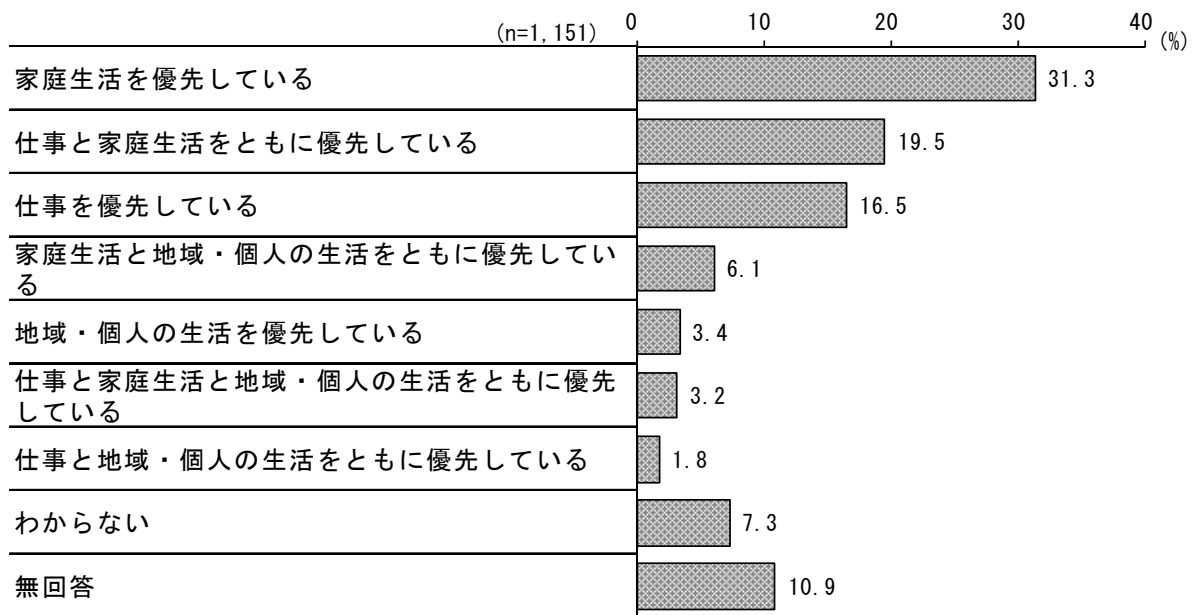
・「友人・知人」(62.1%)が6割以上で最も多くなっている。次いで、「親、兄弟・姉妹などの親族」(48.3%)、「公的な専門の相談窓口」(20.7%)などの順になっている。

(6) DV被害の相談をしなかった理由



・「相談するほどのことではないと思った」(37.1%)が4割近くで最も多くなっている。次いで、「相談しても無駄だと思った」(35.5%)、「自分さえ我慢すればいいと思った」(22.6%)、「相談できる人(ところ)がなかった」(19.4%)、「自分にも悪いところがあると思った」「周りの人に知られたくなかった」(ともに16.1%)、「誰に(どこに)相談していいかわからなかった」(12.9%)、などの順になっている。

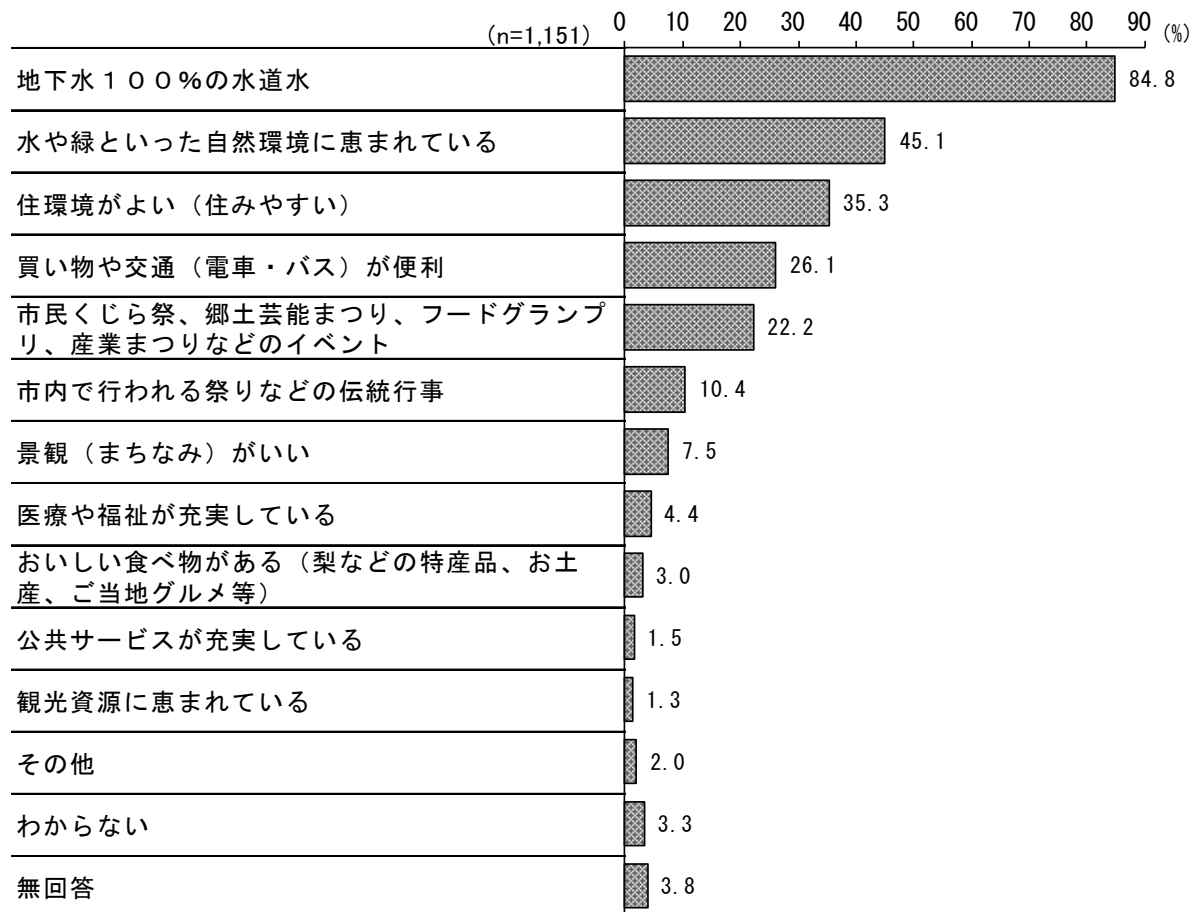
(7) 家庭生活の優先度



・「家庭生活を優先している」(31.3%)が3割以上で最も多くなっている。次いで、「仕事と家庭生活をともに優先している」(19.5%)、「仕事を優先している」(16.5%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」(6.1%)などの順になっている。

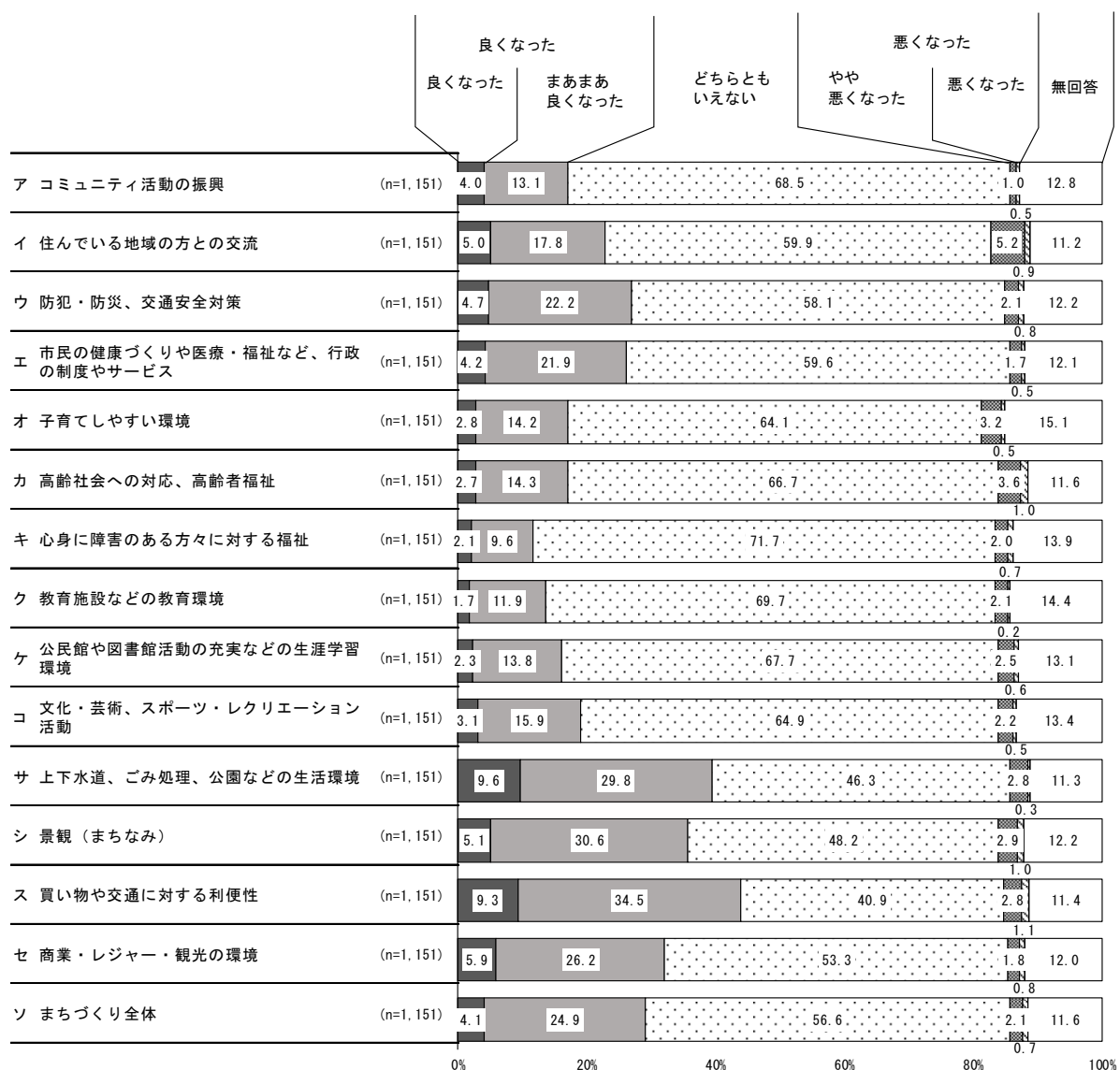
16. 市政・市役所

(1) 昭島の魅力



・「地下水100%の水道水」(84.8%)が8割半ばで最も多く、次いで、「水や緑といった自然環境に恵まれている」(45.1%)、「住環境がよい (住みやすい)」(35.3%)、「買い物や交通 (電車・バス) が便利」(26.1%)、「市民くじら祭、郷土芸能まつり、フードグランプリ、産業まつりなどのイベント」(22.2%)、「市内で行われる祭りなどの伝統行事」(10.4%)などの順となっている。

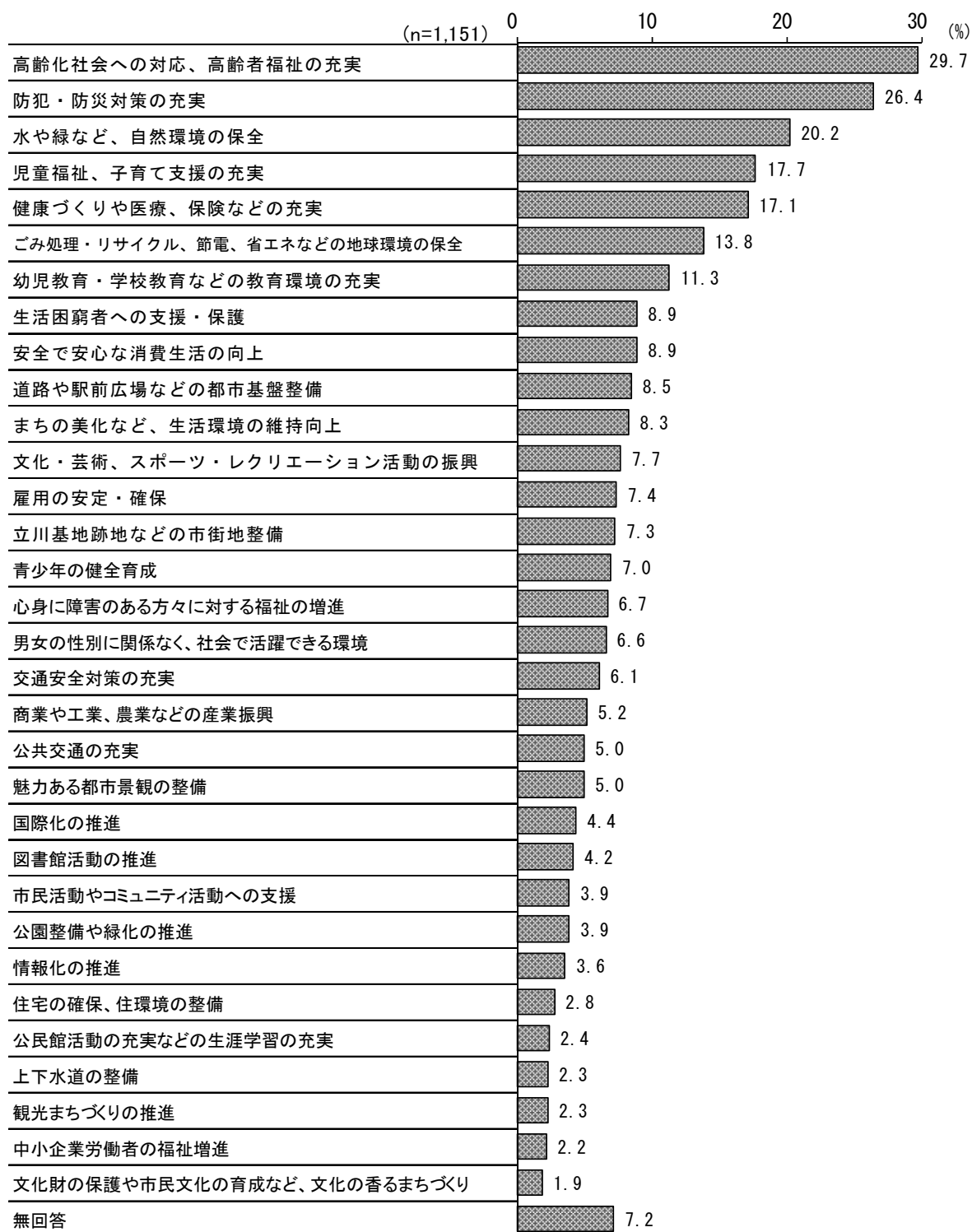
(2) 5年前との住み心地の比較



・「良くなった」と「まあまあ良くなった」を合わせた『良くなった』は【買い物や交通に対する利便性】(43.8%)で最も多く、4割以上となっている。次いで、【上下水道、ごみ処理、公園などの生活環境】(39.4%)、【景観（まちなみ）】(35.7%)と続いている。

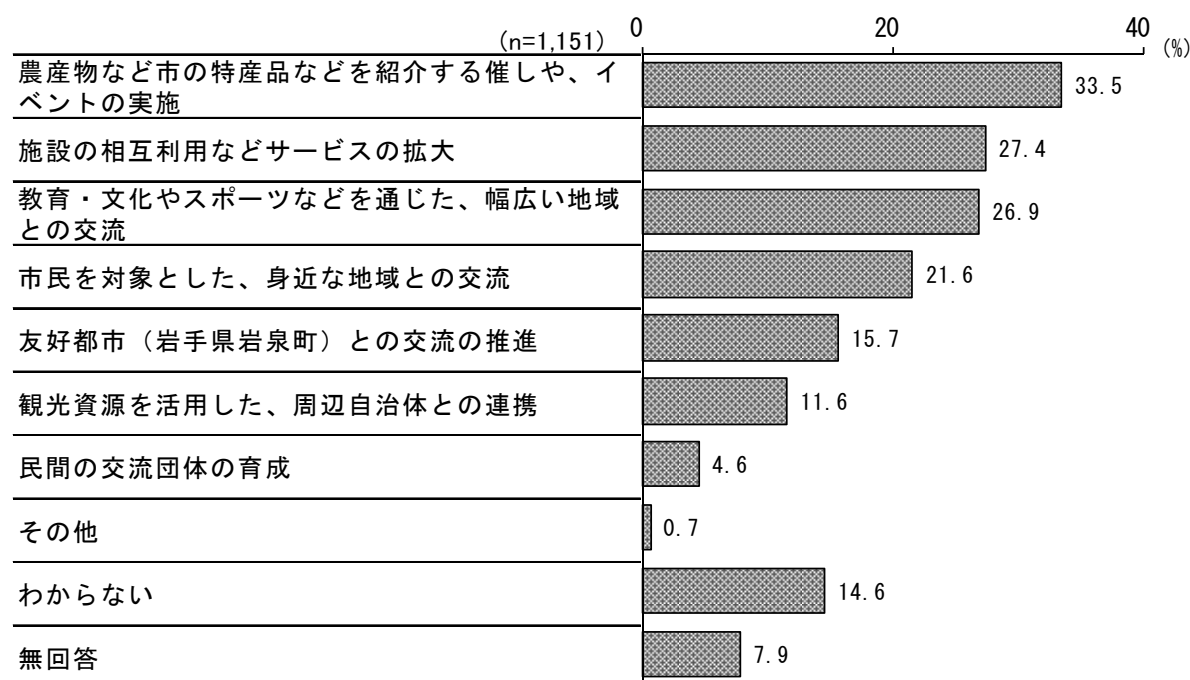
一方、「やや悪くなった」と「悪くなった」を合わせた『悪くなった』は【住んでいる地域の方との交流】(6.1%)が最も多い。

(3) 魅力あるまちづくりへの施策



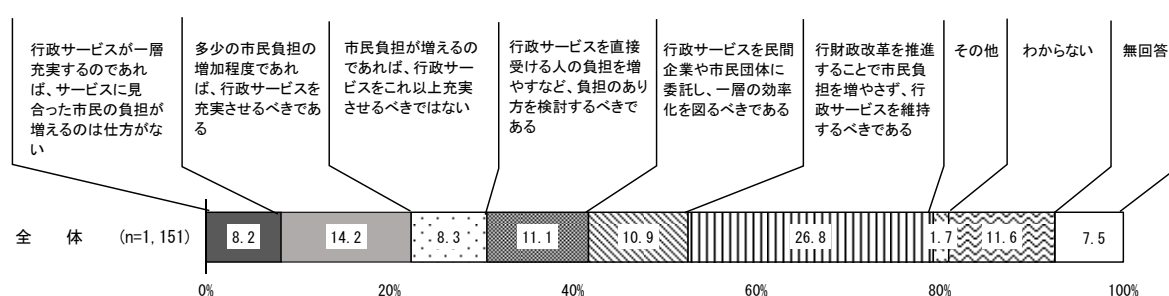
・「高齢化社会への対応、高齢者福祉の充実」(29.7%)が最も多くなっている。次いで、「防犯・防災対策の充実」(26.4%)、「水や緑など、自然環境の保全」(20.2%)、「児童福祉、子育て支援の充実」(17.7%)、「健康づくりや医療、保険などの充実」(17.1%)、「ごみ処理・リサイクル、節電、省エネなどの地球環境の保全」(13.8%)などの順になっている。

(4) 地域間交流・連携に必要な取り組み



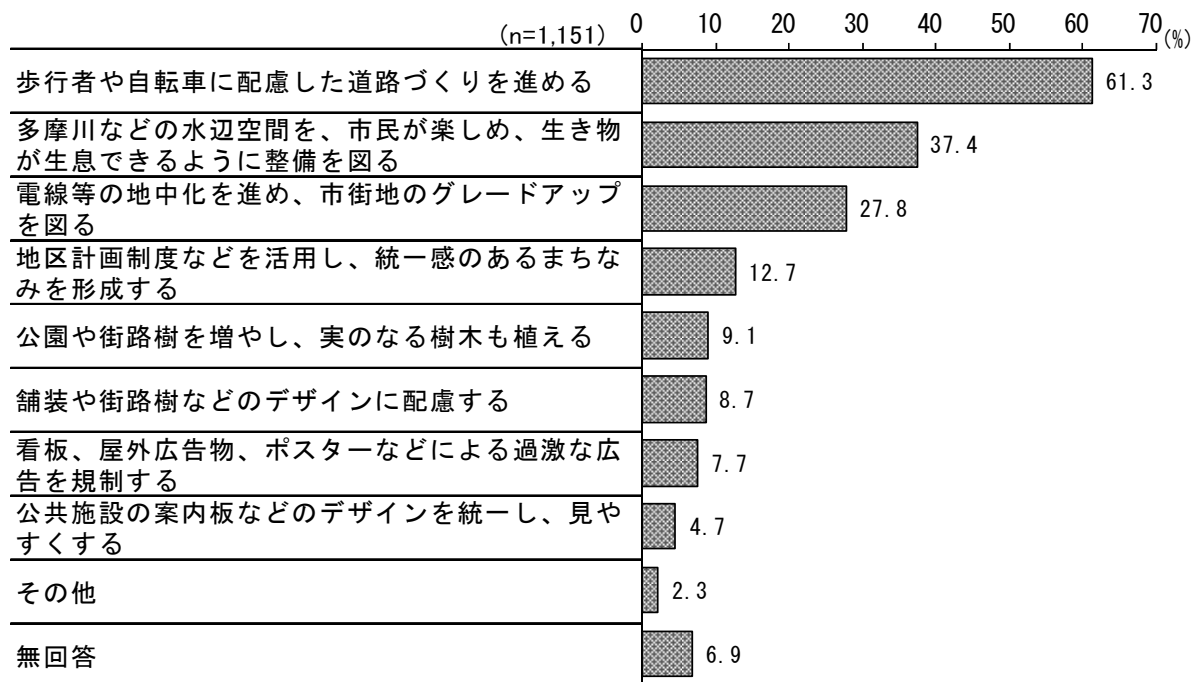
・「農産物など市の特産品などを紹介する催しや、イベントの実施」(33.5%) が最も多くなっている。次いで、「施設の相互利用などサービスの拡大」(27.4%)、「教育・文化やスポーツなどを通じた、幅広い地域との交流」(26.9%)、「市民を対象とした、身近な地域との交流」(21.6%)などの順になっている。

(5) 行政サービスの水準と負担



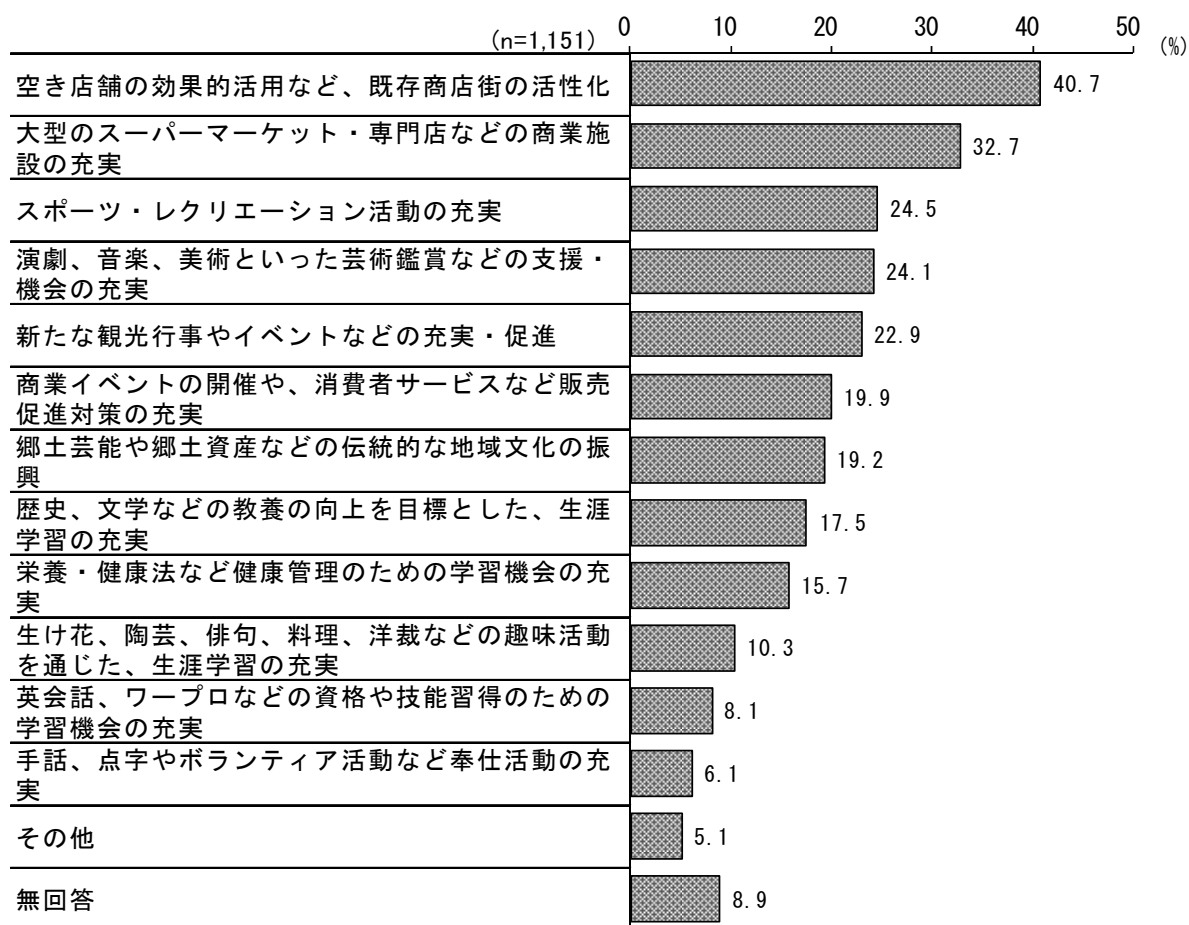
・「行財政改革を推進することで市民負担を増やさず、行政サービスを維持するべきである」(26.8%) が3割近くで最も多い。次いで、「多少の市民負担の増加程度であれば、行政サービスを充実させるべきである」(14.2%)、「行政サービスを直接受ける人の負担を増やすなど、負担のあり方を検討するべきである」(11.1%)、「行政サービスを民間企業や市民団体に委託し、一層の効率化を図るべきである」(10.9%)などの順となっている。

(6) 都市基盤の整備



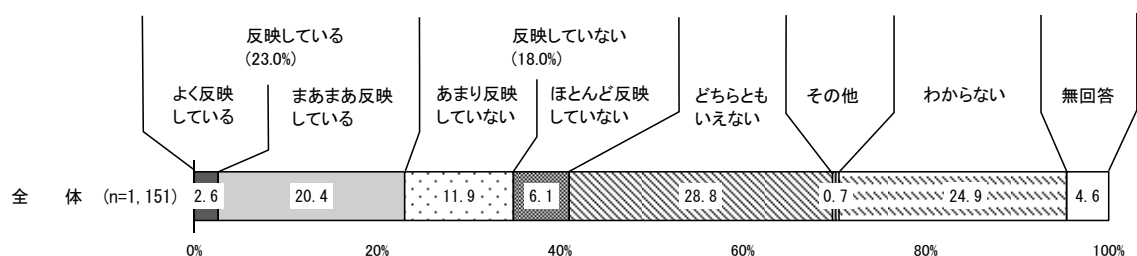
・「歩行者や自転車に配慮した道路づくりを進める」(61.3%) が6割以上で最も多くなっている。次いで、「多摩川などの水辺空間を、市民が楽しめ、生き物が生息できるように整備を図る」(37.4%)、「電線等の地中化を進め、市街地のグレードアップを図る」(27.8%)、「地区計画制度などを活用し、統一感のあるまちなみを形成する」(12.7%)などの順となっている。

(7) 訪れたい・住みたいと思わせるまちづくり



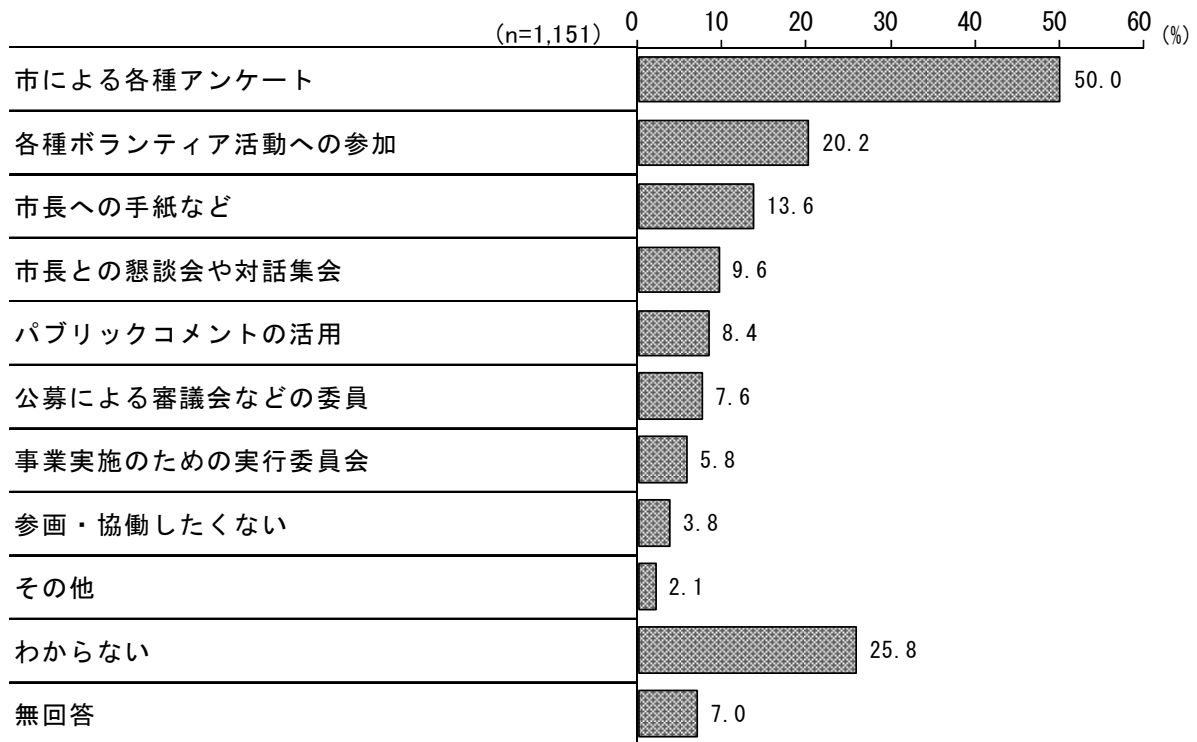
・「空き店舗の効果的活用など、既存商店街の活性化」(40.7%) が約4割で最も多くなっている。次いで、「大型のスーパーマーケット・専門店などの商業施設の充実」(32.7%)、「スポーツ・レクリエーション活動の充実」(24.5%)、「演劇、音楽、美術といった芸術鑑賞などの支援・機会の充実」(24.1%)、「新たな観光行事やイベントなどの充実・促進」(22.9%)などの順となっている。

(8) 市政への市民の声の反映



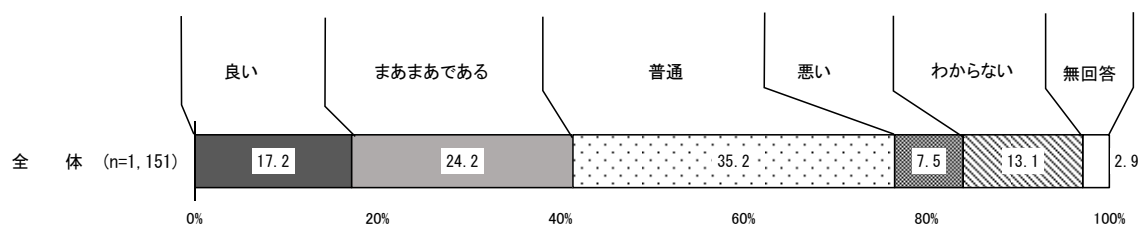
・「よく反映している」(2.6%)と「まあまあ反映している」(20.4%)を合わせた『反映している』(23.0%)が2割以上となっており、「あまり反映していない」(11.9%)と「ほとんど反映していない」(6.1%)を合わせた『反映していない』(18.0%)より多くなっている。また、「どちらともいえない」(28.8%)は3割近くとなっている。

(9) 市政への参画・協働の関わり方



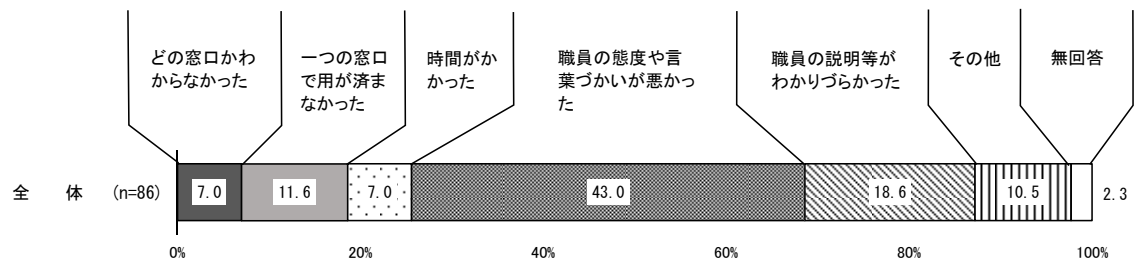
・「市による各種アンケート」(50.0%) が5割と最も多くなっている。次いで、「各種ボランティア活動への参加」(20.2%)、「市長への手紙など」(13.6%)、「市長との懇談会や対話集会」(9.6%)、「パブリックコメントの活用」(8.4%)などの順となっている。

(10) 市役所の窓口サービスの評価



・「普通」(35.2%) が3割半ばと最も多くなっている。次いで、「まあまあである」(24.2%)、「良い」(17.2%)などの順となっている。一方、「悪い」(7.5%)は1割未満となっている。

(11) 窓口サービスが悪いと感じた理由



- ・「職員の態度や言葉づかいが悪かった」(43.0%) が 4 割以上と最も多くなっている。次いで、「職員の説明等がわかりづらかった」(18.6%) 、「一つの窓口で用が済まなかった」(11.6%) 、「どの窓口かわからなかった」と「時間がかかった」(7.0%) の順となっている。

昭島市 市民意識調査 概要版

平成 2 7 年 1 2 月

発 行： 昭島市企画部秘書広報課

〒196-8511 東京都昭島市田中町一丁目 17 番 1 号

電話 042-544-5111 (代表)

調査実施： 株式会社 T D S
